

名古屋市歴史まちづくり戦略（案）

平成23年1月

目次

第1章 歴史まちづくり戦略の策定にあたって

- 1 戦略策定の趣旨 1
- 2 戦略の位置づけ 2

第2章 名古屋のまちの成り立ち

- 1 尾張名古屋の骨格形成期 5
- 2 世界に誇る産業文化都市の確立期 13

第3章 歴史まちづくり戦略

- 1 戦略の基本理念 21
- 2 戦略推進の視点 22
- 3 戦略の枠組み 23
- 4 歴史まちづくり戦略 25

戦略 尾張名古屋の歴史的骨格の見える化 25

- 方針1 名古屋城の再生と城下町のアイデンティティ継承 26
- 方針2 悠久の歴史を誇る熱田の魅力向上 37
- 方針3 有松・堀川など「まち・むら」をつなぐ「道・水」を活かす 42

戦略 世界の産業文化都市・名古屋のまちづくり資産を活かす 54

- 方針1 名古屋の近代化・産業発展を支えた屋台骨の再生 55
- 方針2 近代名古屋のハイカラ文化を活かす 60
- 方針3 震災復興により形成された資産を活かす 67

戦略 身近な歴史に親しむ界限づくり 70

- 方針1 身近な歴史的界限の趣を活かす 71
- 方針2 防災まちづくりとの連携 77

戦略 地域力で歴史的資源を「まもり・いかし・つなぐ」仕組みづくり 78

- 方針1 身近な歴史的建造物の保存・活用の推進 79
- 方針2 地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの推進 81
- 方針3 歴史まちづくりのネットワークづくり・情報発信 82
- 方針4 歴史まちづくり施策の総合展開 83

第1章 歴史まちづくり戦略の 策定にあたって

1 戦略策定の趣旨

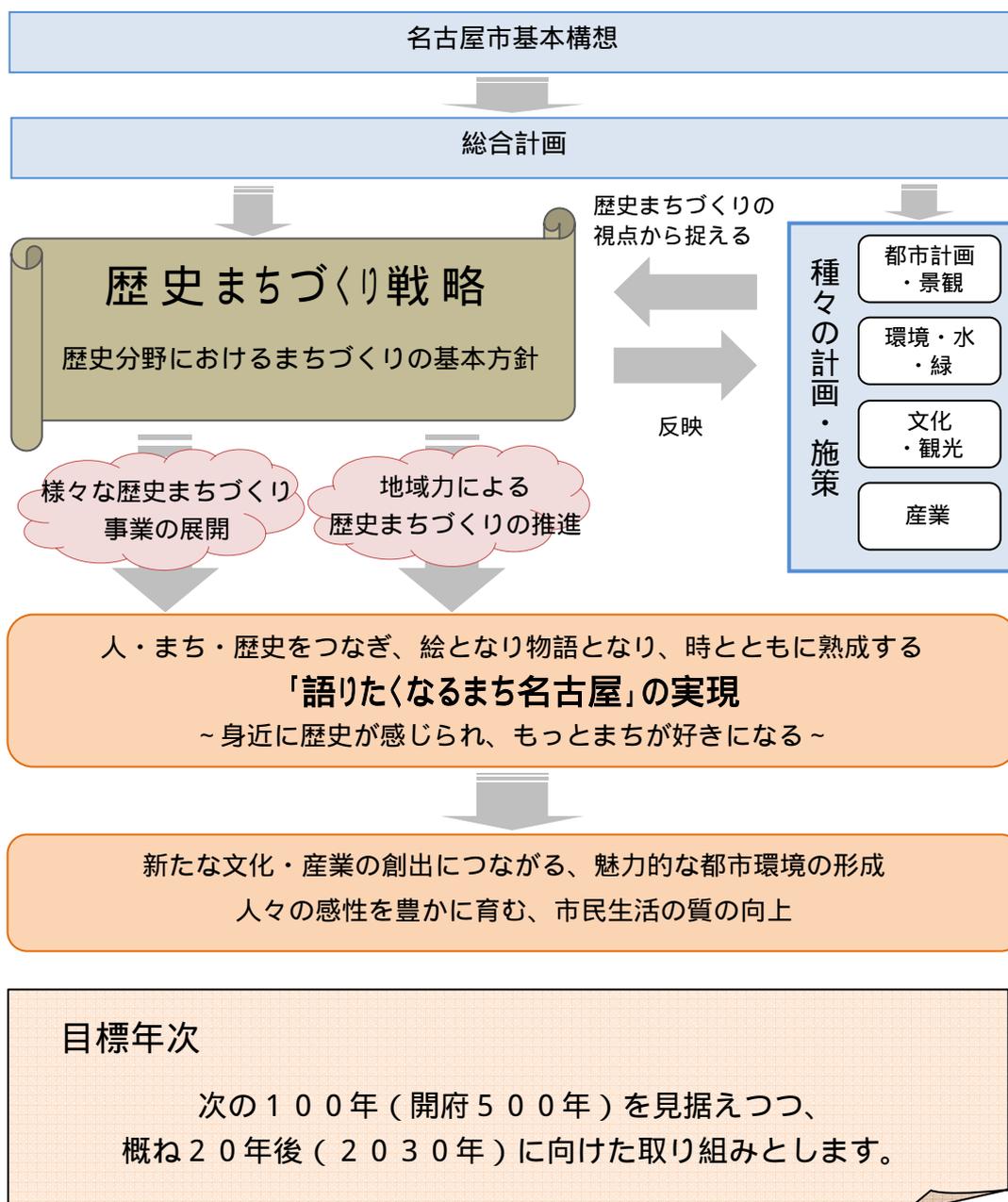
- ・名古屋は、古代熱田における文化の興隆、近世城下町としての都市の形成と発展、近代における産業都市化による大都市への飛躍など、幾多の歴史を積み重ねてきたまちです。
- ・しかしながら、戦災によって、まちのシンボルであった名古屋城天守閣をはじめ、城下・熱田の大半を焼失してしまいました。また、名古屋は市街地の大半を区画整理によって整備される一方、失われた歴史的資源も少なくありません。
- ・語り継がれる歴史の積み重ねは多いものの、現在の市街地において歴史を物語る町並みや風景は多くは残っておらず、身近にまちの歴史が感じられにくい都市環境ともいえます。

- ・一方、都市の活性化においては、魅力的な都市環境の形成や、人々の創造力から生み出される知的財産の重要性が増しています。これに伴い、都市独自の「歴史」を活かした、人々の感性を引き出す都市環境の形成や、文化・産業の創出が、新たな都市課題となってきました。
- ・また、経済が発展し、社会の成熟化が進むなかで、都市環境に対する人々の意識も、これまでの利便性・機能性を重視する考え方から、生活の質（自然環境との調和や、人々の感性や創造性を大切に健康で文化的な生活）を重視する考え方に変化してきました。こうした市民意識の変化のなかで、都市の歴史的資源の保存・活用を求めるニーズも高まってきました。

- ・こうしたなか、世界に誇れる魅力的な都市環境を形成するためには、名古屋が持つ独自の歴史魅力を引き出し、これを「資源」として位置づけ、これまでの歴史の流れを尊重してまちづくりに戦略的に活用するとともに、名古屋の歴史を国内外に広く発信していくことが求められています。また、地域に残された歴史的資源を積極的に保存・活用することにより、身近に歴史が感じられるまちづくりに取り組むとともに、市民それぞれがまちに誇りを持ち、次世代にまちの歴史を語り継いでいくことが大切と考えられます。
- ・開府400年（2010年）を契機に、これまでの名古屋の歴史の積み重ねを振り返るとともに、開府500年を見据えながら、地域住民・行政をはじめとする様々な主体が協働して、身近に歴史が感じられるまちづくりに積極的・戦略的に取り組むために、歴史分野におけるまちづくりの基本方針として、「歴史まちづくり戦略」を策定します。

2 戦略の位置づけ

- ・身近に歴史が感じられるまちづくりに積極的・戦略的に取り組むために、市政の基本理念である名古屋市基本構想や、総合計画をふまえ、歴史分野におけるまちづくりの基本方針として「歴史まちづくり戦略」を策定します。
- ・「歴史まちづくり戦略」では、主として、「地域の歴史的資源を活かした、魅力的な都市環境の維持・形成」に取り組むこととし、都市計画、環境、文化、観光、産業などの部門との整合・連携を図りながら、地域住民・行政をはじめとする様々な主体によるまちづくりの展開を想定しています。
- ・目標年次は、次の100年（開府500年）を見据えつつ、概ね20年後（2030年）に向けた取り組みとします。



第2章 名古屋のまちの成り立ち

名古屋は、中世以前から熱田社と湊まちとして栄えていた「熱田」のまちと、徳川家康によって築かれた日本最大級の近世城郭「名古屋城」とその城下町が骨格となって拡大したまちです。

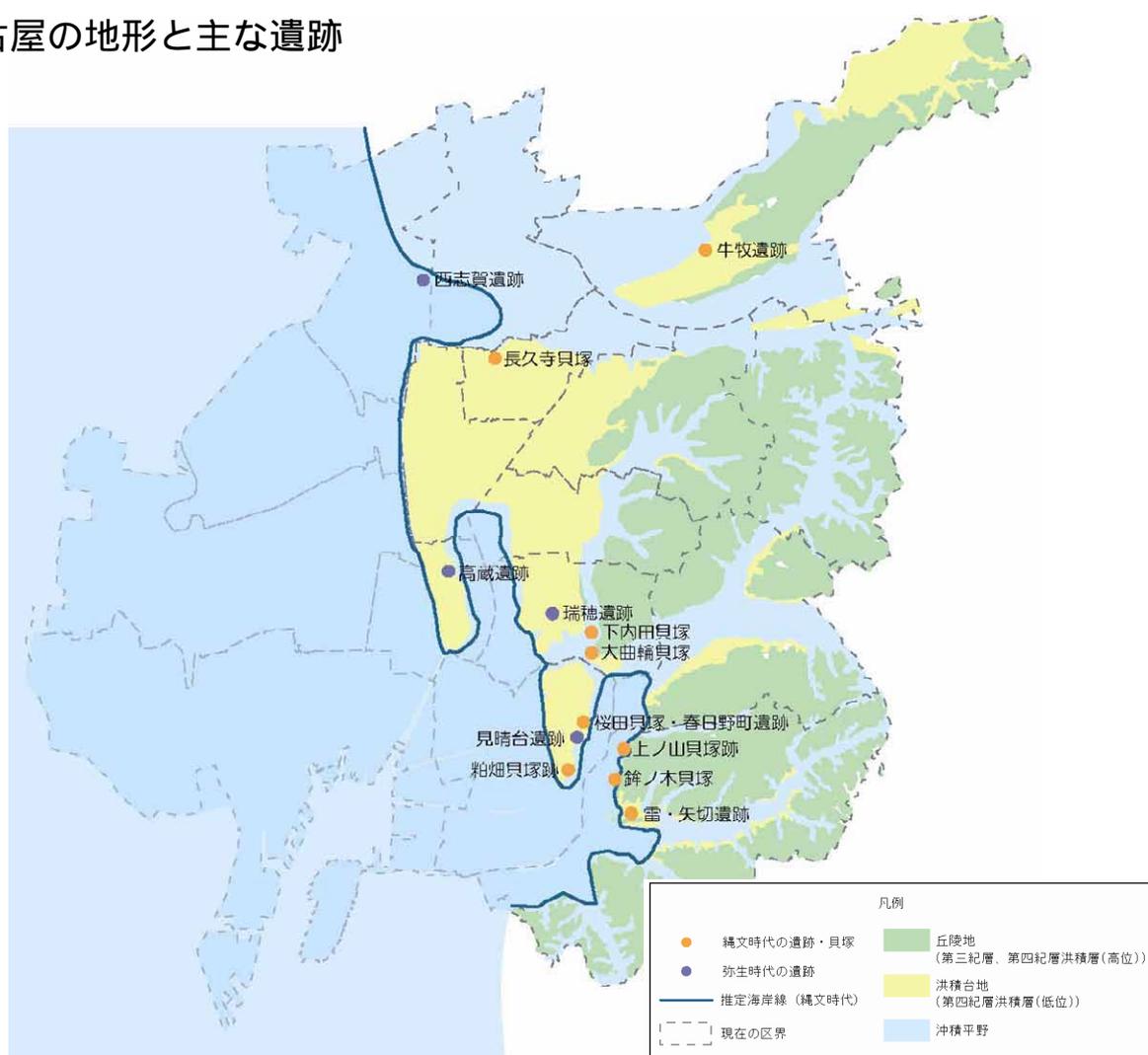
明治維新後は、運河・鉄道等のインフラ整備や産業振興が図られ、近代産業都市へと変貌し、その後の戦災や伊勢湾台風などの被害を乗り越え、世界に冠たる産業文化都市として今も発展を続けています。

1 尾張名古屋の骨格形成期

(1) 縄文・弥生時代の地形と集落の形成

現在からおよそ1万年～2万年前には、名古屋西南部は海となっており、現在の名古屋城や都心周辺部分も海岸に面していました。ここに生きた古代人の様々な営みは、台地の各所に残る貝塚や遺跡から確認されています。

名古屋の地形と主な遺跡





地形

- ・縄文時代早期後半から前期（今から約 6,000～6,500 年前）にかけての頃の海面は、現在より 2 m 前後は高かったといわれています。その頃の海岸線は、名古屋台地に沿ってゾウの鼻のような形をしていました。

人々の営み

- ・名古屋の地に人々が住み始めたのは、今からおよそ 3 万年前の旧石器時代であったと言われています。その後、およそ 1 万 2 千年ほど前に始まった縄文時代には、土器と弓矢を持った人々が次第に定住を始めます。
 緑区上ノ山、^{ほこのき}銚ノ木、^{かすはた}南区粕畑、^{おおぐるわ}瑞穂区大曲輪などにある貝塚の存在により、台地や丘陵の奥部まで海が浸入していたことがわかりました。大曲輪貝塚は国の史跡に指定されています。
- ・縄文時代が終わりを告げる約 3 0 0 0 年前のころには守山区牛牧、緑区^{いかづち}雷・矢切などに大規模な集落が誕生しました。その後西日本から名古屋に弥生文化が伝わると西区西志賀付近に最初の集落が営まれました。
- ・やがて弥生人は名古屋台地縁辺の高蔵、瑞穂周辺に居住空間をひろげ、大小の集落を形成しますが、近畿地方から押し寄せてきた勢力（大和王権）に次第に組み込まれていきます。



縄文時代の土器



縄文時代の土偶

(2) 古代から中世の尾張 ~ 伝説・信仰から熱田の町の形成 ~

5世紀から7世紀にかけて、「尾張氏」が東海地方最大の豪族として台頭していました。尾張氏の墳墓とされる東海地方最大の断夫山古墳や尾張氏の祀神をまつた熱田社が作られ、以後熱田は社を核に次第に発展していきました。また、守山区上志段味、緑区大高に残る古墳や古い神社の存在からも、こうした地域が尾張氏ゆかりの地であることがわかります。

主な古墳、古窯、式内社



古代の名古屋

- ・大和王権との強力な関係を築いた豪族「尾張氏」が勢力を拡大し、東海地方最大の断夫山古墳などを造りました。
- ・伝承では三種の神器の一つ草薙の劔をまつたのが熱田神宮の起源とされています。
- ・5世紀の中頃、東部丘陵（現在の千種区名古屋大学周辺）で焼き物（須恵器）の生産が開始され、以後、鎌倉時代まで我が国の陶器生産の中心地となりました。
- ・645（大化元）年、大化の改新で隋・唐の律令制に倣った中央集権律令国家体制が成立し、体系的な土地支配体制が確立しました。中島、海部、菟粟、丹羽、春部、山田、愛智、智多の八郡からなる「尾張国」が誕生し、この地方の政治の中枢である国衙は中島郡の稲沢に設置されます。
- ・927（延長5）年に延喜式神名帳という全国の神社の一覧表がまとめられました。この地方は熱田社を始め、熱田社の摂社で宮賞媛命を祭神とする氷上姉子神社や古代社会の氏神としてまつられた尾張戸神社など20社以上が掲載されています。

武家政権の誕生

- ・平安時代には各地に荘園が誕生し、名古屋では那古野庄、山田庄、富田庄などが確認され、現在までその名を残している地名があります。1192（建久3）年に鎌倉幕府を開いた源頼朝の母は熱田神宮大宮司の娘であり、宮司の館があった現在の誓願寺付近が頼朝の出生地と伝えられています。
- ・政治の中心地・鎌倉と文化の中心地・京都を結ぶ鎌倉街道は国内最大の幹線ルートとして発達を遂げました。萱津などの宿駅は、交通・流通の拠点として発展しました。
- ・その後鎌倉幕府が倒れ、足利尊氏が京都に室町幕府を開きました。尾張国は1400（応永7）年以降、斯波氏が守護に任命され、その代官として守護代織田氏が国内を支配しました。



断夫山古墳



熱田社（熱田神宮）



氷上姉子神社



尾張戸神社

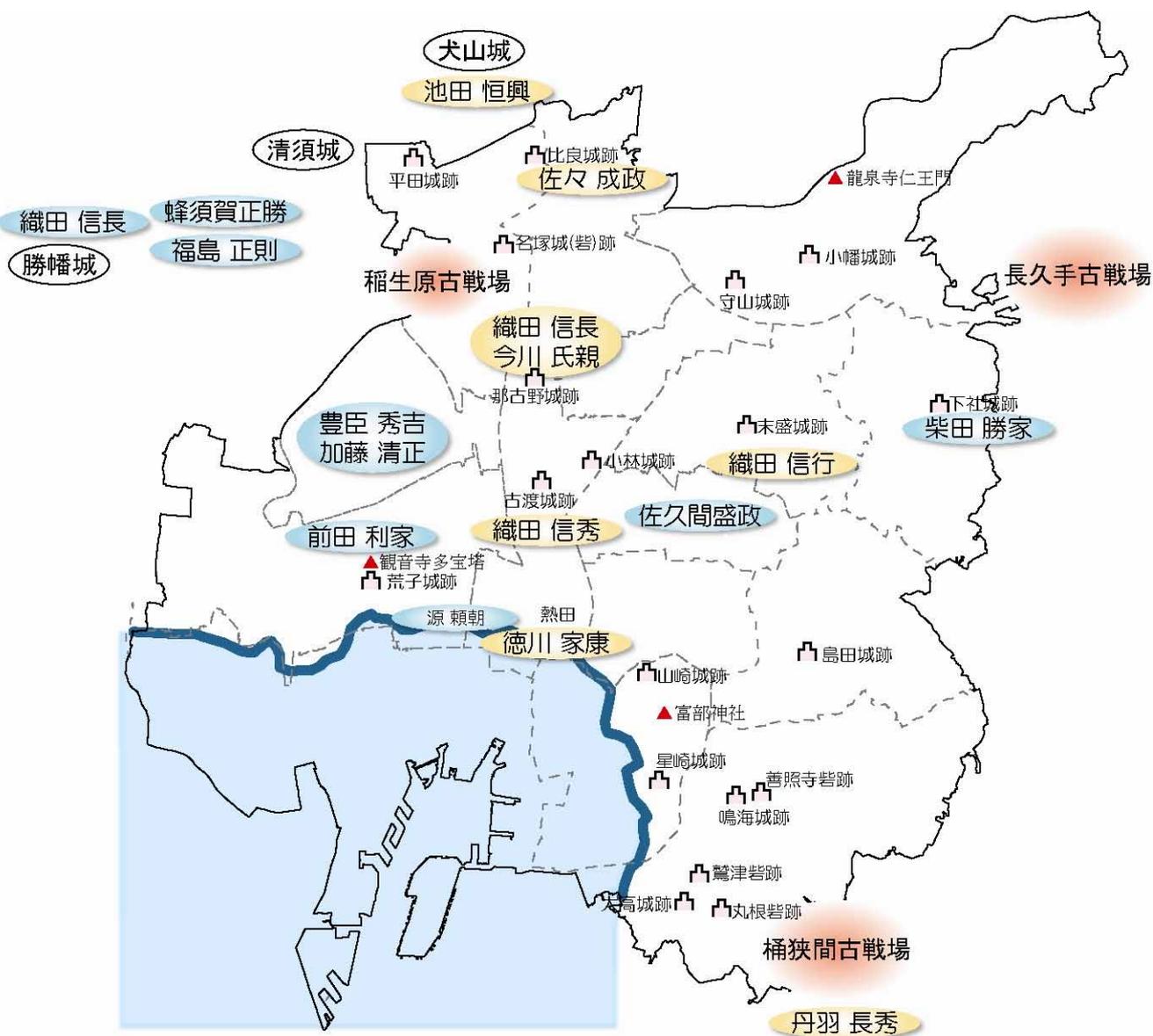


東山 H101 号古窠跡

(3) 武将の活躍期 ~ 戦国の争乱と尾張 ~

室町幕府の没落によって各地で争乱が起こり、東西の要衝の地であった尾張は織田信長、豊臣秀吉、前田利家など、後に活躍する幾多の戦国武将を生み出しました。名古屋周辺は天下統一の舞台となり、城・砦・古戦場跡などが残っています。

主な城・砦跡・古戦場と武将ゆかりの地など



凡例	
凸	主な城跡
▲	主な建築物
—	推定海岸線 (中世末期)
○	出生地 (伝)
●	主なゆかりの地
- - -	現在の区界
○	古戦場

武将

- ・織田信長、豊臣秀吉、前田利家、加藤清正など戦国時代に活躍した武将がこの地から数多く輩出しました。

城・砦跡・古戦場

- ・尾張各地に割拠した群雄が相争うようになり、城や砦を築いて合戦が繰り返されました。
- ・今川氏親が築いた那古野城、織田信長の父信秀が築いた古渡城、末盛城などがあります。
- ・名古屋周辺を舞台にした合戦場には、織田信長と弟・信行との「稲生原」、大高城跡・鷲津砦跡・丸根砦跡（国指定史跡）などがある織田信長と今川義元との「桶狭間」、豊臣秀吉と徳川家康との「小牧・長久手」などの古戦場跡がよく知られています。

建造物

- ・室町時代に建てられた市内最古（1536(天文 5)年）の建築物である観音寺多宝塔（国指定文化財・荒子観音）をはじめ、龍泉寺仁王門、富部神社本殿（いずれも国指定文化財）など、17世紀初頭の建造物も残されています。



大高城跡（大高城跡公園）



末盛城跡（城山八幡宮）



古渡城跡（東別院）



観音寺多宝塔



龍泉寺仁王門

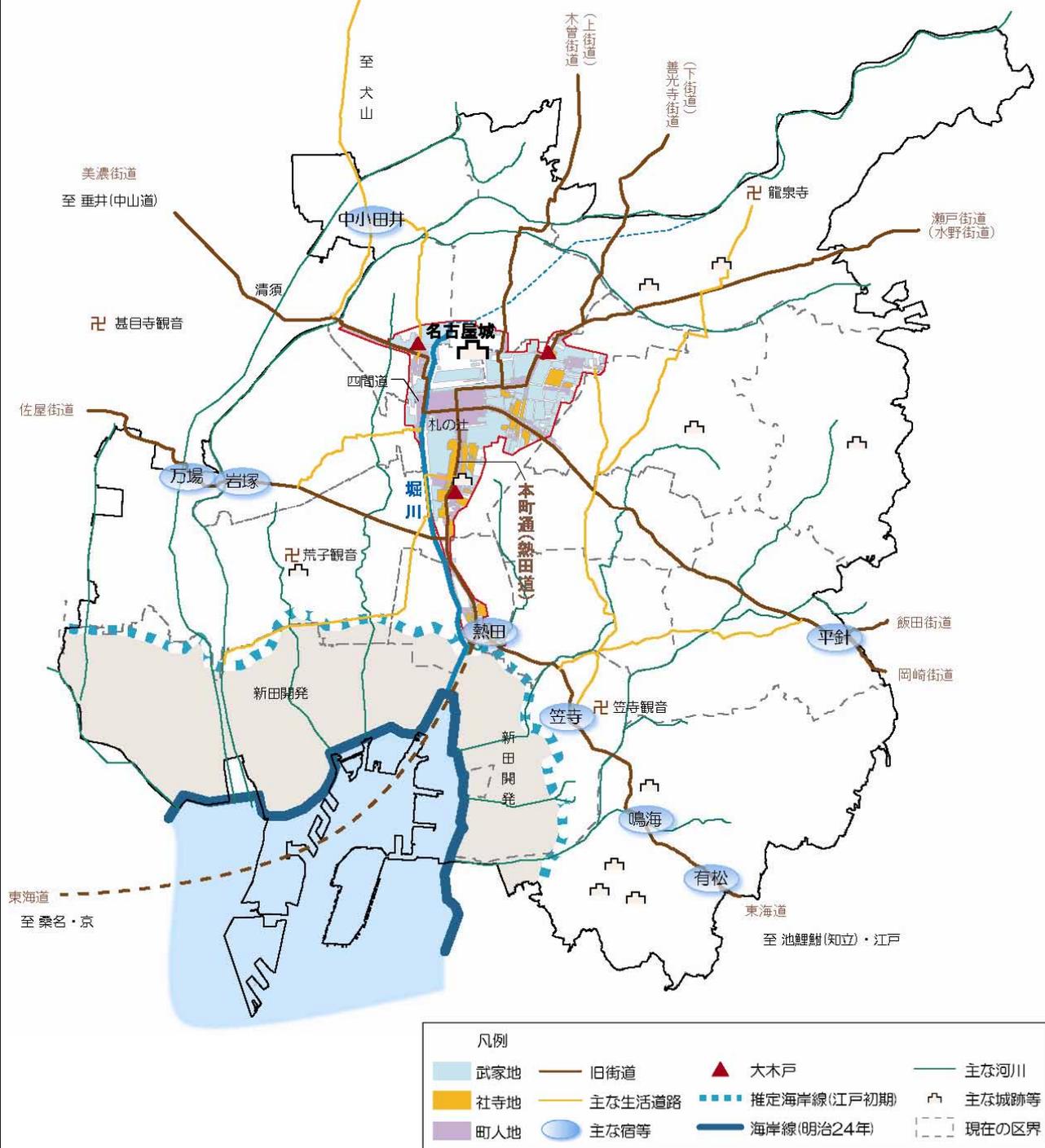


富部神社本殿

(4) 名古屋城築城と城下町 ~ 城下町の形成と街道沿いの町並み ~

1610年、戦国の乱世を制した徳川家康は、名古屋台地の北端に、日本最大級の近世城郭名古屋城を築城し、尾張の中心であった清須城下町を名古屋へ移しました（清須越）。その後、尾張藩歴代藩主の治世によって、現代に続く名古屋の文化の礎が築かれていきました。

江戸時代の都市構造



城下町

- ・名古屋城の築城に合わせ、地割（武家地、社寺地、町人地の区画割）と町割（清須各町の移転先の割当）がおこなわれました。（清須越、1610年開府）
城下町の入口である橋町、赤塚町、樽屋町の3ヶ所に大木戸が設けられ、その内が御城下とされました。
- ・城下町の中央、城の南に近代都市名古屋の原型となる、碁盤割の町割が形成され、主に町人地を配置しました。町民の職業などを示す町名が多く付けられました。
- ・城を起点に碁盤割を囲む東・南・西に武家地を配置し、城から離れた東と南の街道沿いに社寺地（寺町）を配置し要衝を固め、城下町を築きました。
- ・名古屋城の築城と同時に城郭の西から熱田の湊まで、福島正則を総奉行に堀川の開削が行われました。堀川は、城下町への生活物資の運搬水路として、重要な役割を担いました。堀川沿いの四間道には、今でも蔵などが建ち並ぶ町並みが残っています。



名古屋城（焼失前）



四間道の町並み

街道・宿

- ・東海道の宮の宿（熱田）と城下町は本町通（熱田道）と堀川で結ばれました。熱田は城下に組み込まれず、全国最大の宿場町として繁栄しました。
- ・全国を結ぶ東海道、中山道など五街道と宿駅を幕府が定め、尾張では、その付属街道として美濃街道、佐屋街道が通っていました。また、近隣諸国を結ぶ街道として木曾街道、岡崎街道などを尾張藩が決めました。伝馬町通と本町通との交差点には高札場が設けられ、札の辻と呼ばれ、名古屋からまたは名古屋への距離の基準点となりました。
- ・緑区の鳴海・有松、中村区の岩塚、中川区の万場、西区の中小田井など、旧街道沿いに町並みが残っています。また、笠寺には、市内唯一の一里塚が残っています。



有松の町並み

新田開発

- ・尾張藩や豪商、豪農などによって、干拓による新田開発が盛んに行われました。熱田新田、熱田前新田などが代表的なものです。

文化

- ・東照宮祭などの神社の祭礼、オマントウ、山車、棒の手などの伝統行事が残っています。
- ・大須・門前町から橋町にかけての仏具・仏壇、有松・鳴海の絞りなど、江戸時代からの伝統産業が残っています。



旧東海道一里塚（笠寺）

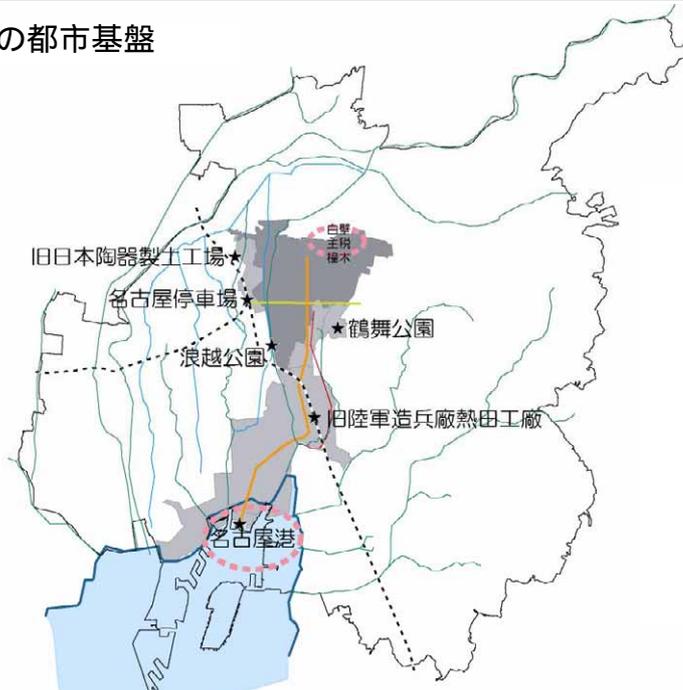
2 世界に誇る産業文化都市の確立期

(1) 近代産業都市形成期 ~ものづくり産業文化都市へ~

明治時代になると、名古屋駅の開業と市制施行（1889（明治22）年）を契機に鉄道駅とまちを結ぶ幹線道路、路面電車、電気、ガスの整備などの基礎的なインフラが整い、大都市名古屋へ飛躍する基盤ができました。

さらに、名古屋港の開港によって輸出産業都市への基盤ができるとともに、鶴舞公園を会場とした博覧会の実施により都市部の発達が促されました。

明治の都市基盤

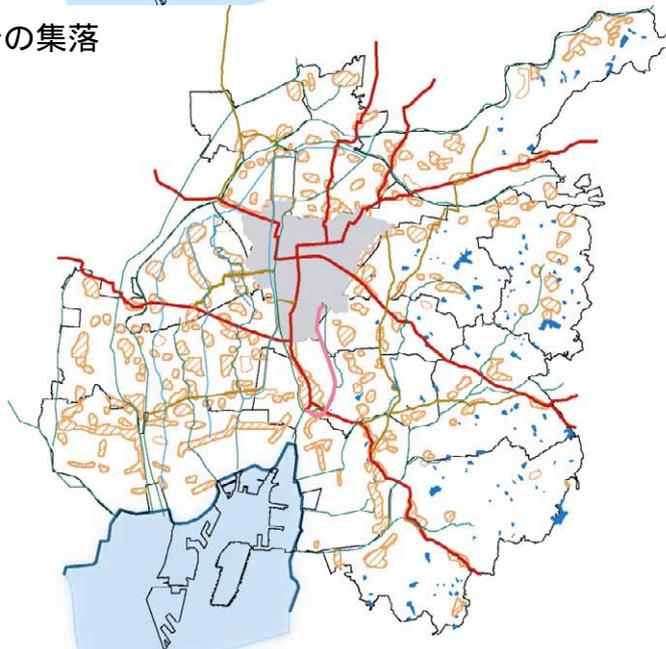


凡例

- 市域(明治22年)
- 市域(明治43年)
- 海岸線(明治24年)※
- 新堀川
(明治38年起工、明治43年竣工)
- 庄内用水(明治24年)※
- 広小路通
- 大津通・梅ノ木線
- 主な河川

※ 地形図 1/20,000
帝国陸軍陸地測量部製図より作成

明治の集落



凡例

- 市域(明治22年)
- ▨ 集落(明治24年)※
- 海岸線(明治24年)※
- 旧街道
- 主な生活道路
- 新堀川
(明治38年起工、明治43年竣工)
- 庄内用水(明治24年)※
- 主な河川
- 主なため池(明治24年)※

※ 地形図 1/20,000
帝国陸軍陸地測量部製図より作成

文明開化で変化する名古屋

- ・名古屋城が陸軍省の所管となり、二之丸御殿や三之丸にあった広大な武家屋敷などが取り壊され、陸軍の施設が建設されました。現在博物館明治村にその施設の一部が移築されています。また、城下北東部の尾張藩下屋敷跡や武家屋敷跡は、江戸期の町割を残しつつ近代住宅や公園、学校などに転換されていきました。市内で最も古い公園である浪越公園（現在の那古野山公園）が建設されたのもこの頃です。
- ・1891（明治24）年にマグニチュード8.2という大きな地震（濃尾地震）があり、名古屋城の石垣等が崩れ、近代的な建築物であった煉瓦造建物の多くが倒壊し、市内に甚大な被害をもたらしました。
- ・明治中期以降、瀬戸物が輸出産業の花形の一つとなると、城下北東部の白壁・主税・槿木周辺は絵付けなど輸出向け陶磁器の製造工場や貿易商の事務所が林立していきました。また、城下町の町人地は、碁盤割の骨格は残しつつ、近代の間屋街、繁華街へと衣替えしていきます。

近代都市基盤の芽生え

- ・国鉄（現在のJR）東海道線が建設され、1886（明治19）年、現在の笹島交差点付近に名古屋停車場が開業しました。名古屋の東西の目抜き通りである広小路通が都心から名古屋停車場まで延伸しました。名古屋に電灯が灯ったのも、この頃です。1894（明治27）年には広小路通を現在の久屋西交差点から千種駅まで延伸する決定をしました。また、1898（明治31）年には広小路通に国内で2番目の路面電車（名古屋停車場前～栄町）が開通し、都心部の発達を促しました。
- ・1907（明治40）年の名古屋港の開港と合わせ、名古屋港と都心を結ぶ南北の大動脈となる大津通が整備されていきました。名古屋にガスが供給され、広小路通と大津通（栄町から伝馬町通）にガス灯が灯されました。産業発展のために欠かせない運河の整備にも力が注がれ、新堀川（精進川）が開削されました。またその掘削土で鶴舞公園が整備され、開府300年、1910（明治43）年には博覧会（第10回関西府県連合共進会）の会場となりました。
- ・現在、市内に明治期の建造物は多く残っていませんが、この博覧会でつくられた鶴舞公園の噴水塔を始め、旧日本陶器製土工場、旧陸軍造兵廠熱田工場などがあります。



陸軍の施設があった名古屋城(米軍撮影)



濃尾地震で倒壊した名古屋郵便局
(明治24年) 市政資料館蔵



名古屋停車場
(明治39年頃) 名古屋市交通局蔵



第十回関西府県連合共進会
絵葉書(明治43年)
名古屋市博物館蔵



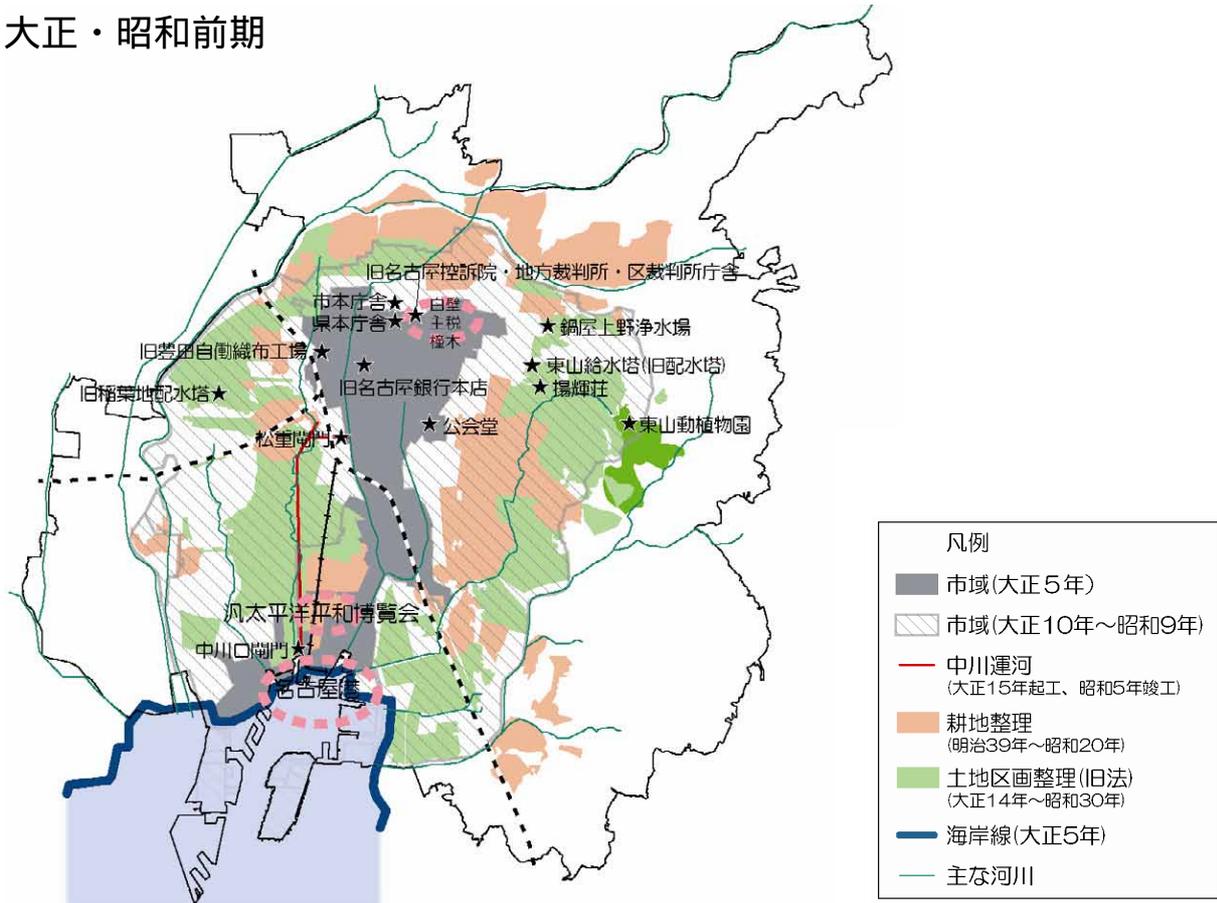
鶴舞公園(噴水塔)



ノリタケの森
(旧日本陶器製土工場)

大正・昭和前期の名古屋は、市域の拡大とともに名古屋駅と港を結ぶ中川運河などを中心とした工業地帯が広がる産業都市として開花しました。また、積極的な区画整理などにより宅地化が進みました。この頃には新取の気風をもつ起業家たちが活躍し、洋風のビルや居宅を次々と建設し、城北北東部や広小路・大津通といった目抜き通り沿い、郊外にも当時の建築物が残っています。1937（昭和12）年には戦前最大の名古屋汎太平洋平和博覧会を成功させ、名実ともに産業文化都市として発達していきました。

大正・昭和前期



市制施行以来の名古屋市人口の推移



大都市名古屋へ

- ・ 1920（大正9）年に都市計画法が施行されました。同法施行以前からの5大幹線道路を始め、5大幹線運河や公園、用途地域などを都市計画として順次決定していきました。これにより、名古屋の産業発展が促進されました。
- ・ 1914（大正3）年に鍋屋上野浄水場、大正5年に東山配水塔が建設され、市内の一部で給水が開始されました。
1926（大正15）年に中川運河が起工されました。中川運河は、潮の干満に影響されない一定の水位とするため、中川口閘門と松重閘門が設置され、堀川や名古屋港と接続しました。名古屋港から名古屋駅までの水運機能が飛躍的に強化され、一大工業地帯の形成を促進しました。
- ・ 1930（昭和5）年には国内最初の活性汚泥法による堀留・熱田水処理センターが完成するなど、名古屋の近代化を支える都市基盤は着々と整備されていきました。
- ・ 輸出向陶磁器産業で栄えた城下北東部は、貿易商を始め中部の財界を築いた人々も移り住み、優れた近代洋風住宅建築が集まりました。人口増大に伴い新市域において宅地開発が盛んになり、区画整理組合が次々と設立されました。この結果、市域の約半分が計画的に宅地整備され、千種・昭和・瑞穂に新興の近代住宅街が形成されました。郊外別荘の代表である揚輝荘もこのころ建設されました。
- ・ 都心の広小路・大津通には鉄筋コンクリート造の近代建築が次々と建築されました。また、市電の充実とともに沿線では賑わいが増してきました。市本庁舎、県本庁舎などの帝冠様式の公共建築のほか、名古屋を代表する鈴木禎次設計の旧名古屋銀行本店などの近代建築が残っています。
- ・ 1937（昭和12）年に開催した名古屋汎太平洋平和博覧会は、中川運河を掘削し造成した名古屋港臨海部を会場とし、約466万人が来場した、太平洋戦争前最大の博覧会となりました。
- ・ 同年、市電が覚王山から東山公園まで延伸され、東山植物園と動物園が相次いで開園しました。東山植物園の温室は東洋一の水晶宮と呼ばれ、以来市民に親しまれています。
- ・ 市制施行時（1889（明治22）年）約16万人であった人口は、1921（大正10）年には50万人、1934（昭和9）年には100万人を超え、この間に市域面積も約1.1倍となりました。



文化のみち二葉館
（旧川上貞奴邸）



名古屋汎太平洋平和博覧会
絵葉書（昭和12年）
名古屋市博物館蔵



揚輝荘



鍋屋上野浄水場
旧第一ポンプ所



松重閘門



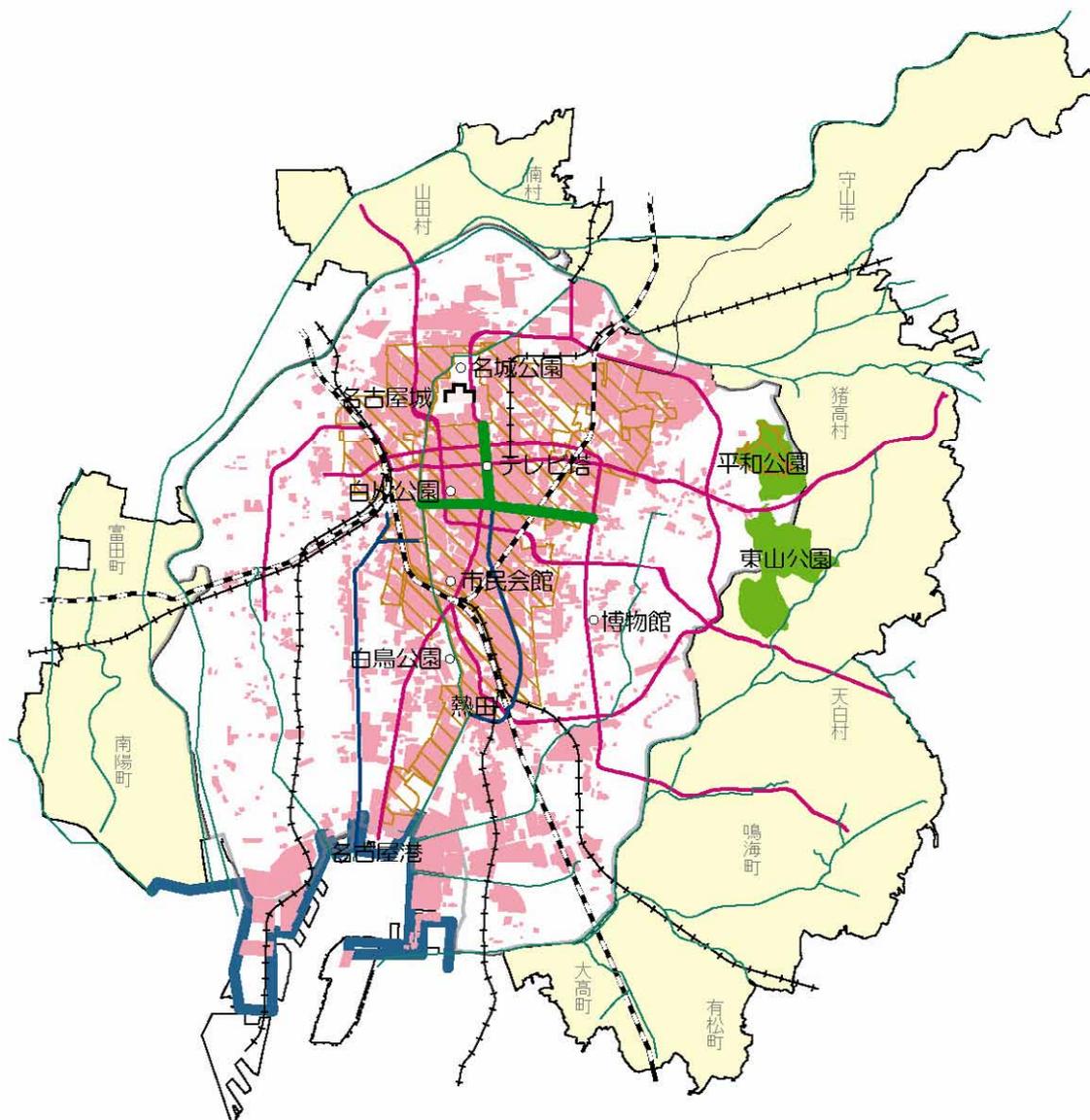
市本庁舎



東山植物園（温室）

(2) 戦災復興と大都市形成期

戦災により当時の市域の約 1 / 4 を焼失し、名古屋城（天守閣）を始め貴重な文化財も失いました。しかし、名古屋市はいち早く戦災復興計画を立案し、総力を挙げて復興に向けたまちづくりに邁進しました。市民の協力を得て 1 0 0 m 道路や市内の墓地を平和公園に集団移転するなど大胆な都市計画を実現することができました。また、伊勢湾台風など幾多の災害も受けましたが、そのたびに復興を遂げており、その後の地下鉄や高速道路の建設によって更なる大都市名古屋へ成長しています。



凡例	
	復興土地区画整理事業区域
	戦災焼失区域
	市域(昭和25年)
	昭和の合併市町村
	100m道路
	海岸線(昭和25年)
	主な河川
	地下鉄

復興し、成長・成熟する名古屋

- ・ 1945（昭和20）年終戦を迎えましたが、戦災によりまちのシンボルであった名古屋城天守閣を始め、城下・熱田など当時の市域の約1/4を焼失しました。直ちに戦災復興計画を策定し、戦災地のみならず関連地域を含めた大胆かつ先進的な都市計画としました。

【復興都市計画の概要】

1945（昭和20年）に戦災復興計画、1946（昭和21）年に復興都市計画を策定し、100m道路（久屋大通と若宮大通の幅員約100mの道路）を始め、幅員50mの主要幹線道路などを格子状に配置した道路網が整備されました。また、碁盤割の地割を活かした商業地区として機能を高め、高度利用が図れるようにするため、地割周囲の道路を広幅員とする区画整理を行いました。

新たに名城公園、白川公園、久屋大通公園、若宮大通公園等の大規模緑地公園や1学区1公園を目標とし、小学校と隣接した公園が整備されました。また、都心からの墓地移転により墓地と公園が一体となった平和公園が整備されました。

- ・ 1951（昭和26）年日本初の民間ラジオ放送が名古屋で開始されました。1954（昭和29）年に高さ180mの日本最初の集約電波鉄塔（テレビ塔）が建設されました。当時日本一の高さを誇りました。
- ・ 高度経済成長期を迎え、名古屋の産業構造は従来の工業中心の都市から、名古屋大都市圏の中核機能、流通・サービス機能を担う第3次産業中心の都市へと転換していきました。また、人々の生活を支えた商店街も発展していきました。
- ・ 錦通など広幅員の道路が復興土地区画整理事業のなかで確保され、1957（昭和32）年に名古屋～栄間で地下鉄が開通しました。それと同時に地下街の建設も進み、名古屋で最初の名古屋地下街（現サンロード）が開業しました。
- ・ 1959（昭和34）年9月に伊勢湾台風が襲来し、市の南西部は大きな被害を受けました。これを教訓に防災まちづくりが進められました。また、同年10月、市民の寄付を受け鉄骨鉄筋コンクリート造により名古屋城天守閣が再建されました。
- ・ 昭和30年代に周辺市町村を合併し、市域が拡大され、1969（昭和44）年には、人口200万人を超える大都市に成長し、それを記念し市民会館や博物館が建設され、市民文化施設が充実していきます。
- ・ 市制100周年を記念してデザイン都市宣言をし、1989（平成元）年に世界デザイン博覧会が名古屋城・白鳥・名古屋港を会場に開催され、約1518万人が来場しました。
- ・ 2002（平成14）年、ごみ減量のきっかけとなった藤前干潟がラムサール条約湿地に登録されました。
- ・ 2005（平成17）年、自然の叡智をテーマとして121カ国4国際機関が参加した愛・地球博（2005年日本国際博覧会）が開催され、2205万人が来場しました。
- ・ 2008（平成20）年、名古屋城本丸御殿の復元が始まり、2010（平成22）年、開府400年を迎えました。



戦災直後の都心
名古屋都市計画史 米軍撮影



名古屋城（再建）



テレビ塔と100m道路



平和公園



世界デザイン博覧会
（白鳥会場）
世界デザイン博覧会公式記録より

第3章 歴史まちづくり戦略

1 戦略の基本理念

(1) 戦略の目標

地域の歴史的資源を活かした、魅力的な都市環境の維持・形成に取り組むためには、市民それぞれが自分たちのまちを好きになり、誇りを持って身近なまちの歴史について語り合うとともに、歴史の流れを尊重したまちづくりを進め、世代を超えてまちの歴史を紡いでいくことが大切です。そのような観点から、「歴史まちづくり戦略」の目標を次のように掲げます。

～人・まち・歴史をつなぎ、絵となり物語となり、時とともに熟成する～

「語りたくなるまち名古屋」の実現

～身近に歴史が感じられ、もっとまちが好きになる～



(2) 協働理念

歴史的な町並みや建造物などをはじめとするまちの歴史的資源は、市民共有の財産であるともいえます。そのため、地域住民・行政をはじめとする様々な主体が協働しながら、歴史的資源を活かしたまちづくりに取り組んでいくことが必要です。

歴史まちづくり戦略では、多様な主体が協働してまちづくりに取り組むための協働理念を、次のように掲げます。

歴史的資源をみんなでまもり・いかし・つなぐ

2 戦略推進の視点

地域に残された歴史的資源を積極的に保存・活用することにより、身近に歴史が感じられるまちづくりに取り組むとともに、市民それぞれがまちに誇りを持ち、次世代にまちの歴史を語り継いでいくため、以下の3つの視点を掲げます。

視点1 気候風土や地形を背景にした、古代から現代に至る都市の形成過程や、地域に残された歴史的資源（モノ・コト）を大切にします。

- ・名古屋の歴史の基礎となっている、気候風土や地形といった背景も踏まえながら、まちづくりを推進します。
- ・古代熱田における文化の興隆～近世城下町としての都市の形成と発展～近代における産業都市化による大都市への飛躍～大胆な都市計画による戦災からの復興など、幾多の歴史の積み重ねによる、重層的なまちの構造を大切にします。
- ・建造物や史跡といった有形の歴史的資源のほか、地域における伝承や人々の営みについても幅広く歴史的資源として捉え、まちづくりに活かします。

視点2 いきいきとした生活・交流の息吹が感じられるまちづくりを目指し、市民（生活者・来訪者・事業者等）の視点を大切にします。

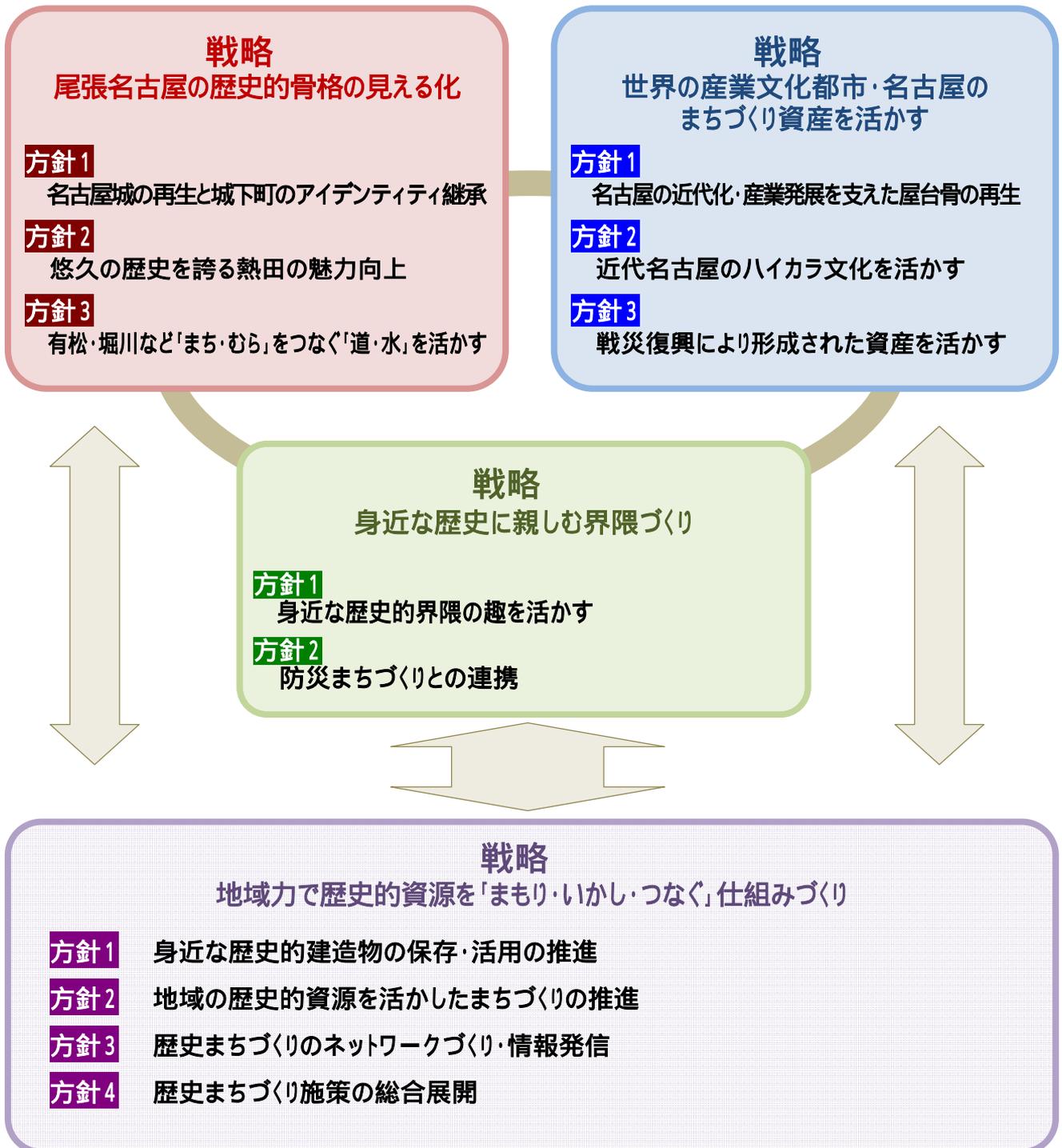
- ・歴史は市民の生活文化に根ざすものであることから、市民の生活の質の向上を図ってゆく視点を大切にします。
- ・地域の歴史的資源を活用した、地域内交流、地域間交流を促進します。
- ・「市民」とは、生活者（地域住民等）だけではなく、来訪者（観光客等）や事業者（商業者等）についても幅広く含めて捉えるものとし、異なる立場の市民の相互理解・相互協力を図りながらまちづくりを推進します。

視点3 環境、文化、観光など、分野横断的な取り組みを推進し、総合的な地域まちづくりの視点を大切にします。

- ・環境、水、緑、文化・観光、産業、都市計画・景観など、歴史まちづくりに関連する分野は多岐にわたるため、分野横断的な取り組みによるまちづくりを推進します。
- ・地域の歴史的資源を、地域でまもり・いかし・つなぐ取り組みを推進し、地域主体のまちづくりの視点を大切にします。

3 戦略の枠組み

- ・「語りたくなるまち名古屋」の実現に向けて、戦略①～戦略④の4つの戦略を定めます。
- ・名古屋の都市構造の視点からの取り組み（戦略①・②）、身近な地域づくりの視点からの取り組み（戦略③）、及び①～④の取り組みを支える仕組みづくり（戦略④）によって構成します。
- ・戦略①は古代から近世（江戸時代まで）の歴史的資源を活かしたまちづくりへの取り組み、戦略②は近代から現代（明治時代以降）の歴史的資源を活かしたまちづくりへの取り組みとします。



地域展開のイメージ



市域の変遷	● 城下町	--- 旧街道	卍 主な神社
■ 明治時代	● 熱田ゆかりの地域	— 広小路・大津通	🗿 主な古墳
■ 大正～昭和初期	○ 宿場町等	— 100メートル道路	卍 四観音寺
海岸の変遷	● 旧集落	— 主な運河・河川	○ 主な武将ゆかりの地
— 縄文期の推定海岸線	● 名古屋港	— 主な用水	🏰 主な城跡等
■ 新田開発、築港・埋立	● 主な公園	— 主な水道	✕ 主な古戦場跡
	● 主な近代住宅地	— 主な鉄道	☆ 主な近代都市資産

4 歴史まちづくり戦略

戦略 尾張名古屋の歴史的骨格の見える化

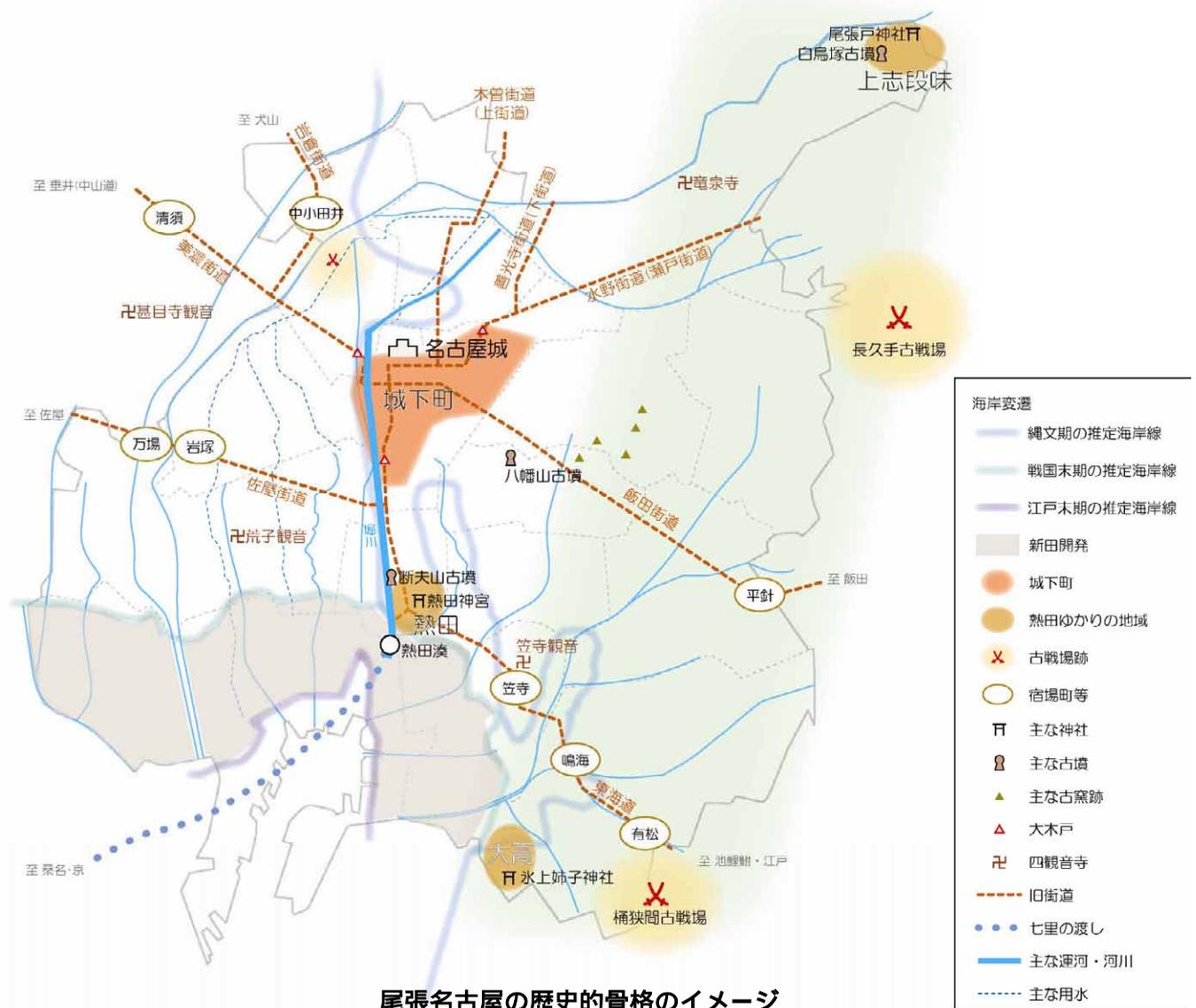
名古屋城と城下町、熱田の杜、城下町を支えた堀川や諸国を結ぶ街道など、古代熱田から近世城下町の時代にかけて形成されたまちの核や軸を、名古屋のアイデンティティ形成の基礎となる歴史的骨格として捉えます。

これらの核や軸を活かし、尾張名古屋の歴史・文化が身近に感じられるまちづくりを進めます。

方針1 名古屋城の再生と城下町のアイデンティティ継承

方針2 悠久の歴史を誇る熱田の魅力向上

方針3 有松・堀川など「まち・むら」をつなぐ「道・水」を活かす



方針 1 名古屋城の再生と城下町のアイデンティティ継承

徳川家康の権威の下、当時の技術と文化の粋を集めて築かれた名古屋城については、近世城郭の代表例であるとともに、名古屋のまちのシンボルとして 400 年の歴史を歩んできた歴史をふまえ、城郭全体の再生に取り組みます。

また、碁盤割の町割や旧跡を今に伝え、武家や町人の暮らしとともに名古屋の文化の中心を担ってきた城下町については、その歴史・文化を継承し、未来に伝えていきます。

(1) 名古屋城の再生

大都市の中心部に位置しながら、近世城郭の縄張りの原状や風格をとどめている名古屋城の城郭について、その全体を名古屋の代表となる歴史資源として一体的に捉えて、世界に誇る歴史的・文化的シンボルとしての再生を目指します。

本丸御殿の復元

- ・日本を代表する武家風書院造の御殿である本丸御殿については、市民の協力を得ながら、近世武家文化を守り伝え、国内外へ名古屋の文化のすばらしさを広めるものとして復元します。
- ・復元にあたっては、戦災による焼失前と同等の文化的価値を有し、かつ市民の財産として広く活用できるように復元します。

名古屋城跡全体の魅力向上

- ・東南隅櫓や表二之門などの重要文化財をはじめとする建造物、1,000 点を超える重要文化財を含む美術工芸品、国指定名勝二之丸庭園、国指定天然記念物の「カヤ」の木、その他往時の遺構を残す石垣・堀・土塁など、名古屋城の歴史的価値を構成する多くの資産を保存・整備し、その価値を後世に伝えていきます。
- ・尾張徳川家藩主の居館があり、藩政の拠点ともなった二之丸については、名勝二之丸庭園を中心とした環境整備を進めることにより、名古屋城の歴史的遺構を表す地区としての保存・整備を推進します。
- ・天守閣については、鉄骨鉄筋コンクリート造による再建後 50 年以上が経過しているため、改修に向けた調査を行います。また、木造による再建については、その是非を含め、将来的な課題として可能性を検証していきます。



天守閣の眺望景観の保全

- 名古屋のまちのシンボルである名古屋城天守閣の眺望景観について、天守閣からの眺望の保全とともに、テレビ塔をはじめとする主要な視点場からの眺望景観の保全を図るため、城郭及びその周辺において、建造物の規制・誘導等について検討します。



テレビ塔からの眺望景観

緑地・水辺の保全と活用

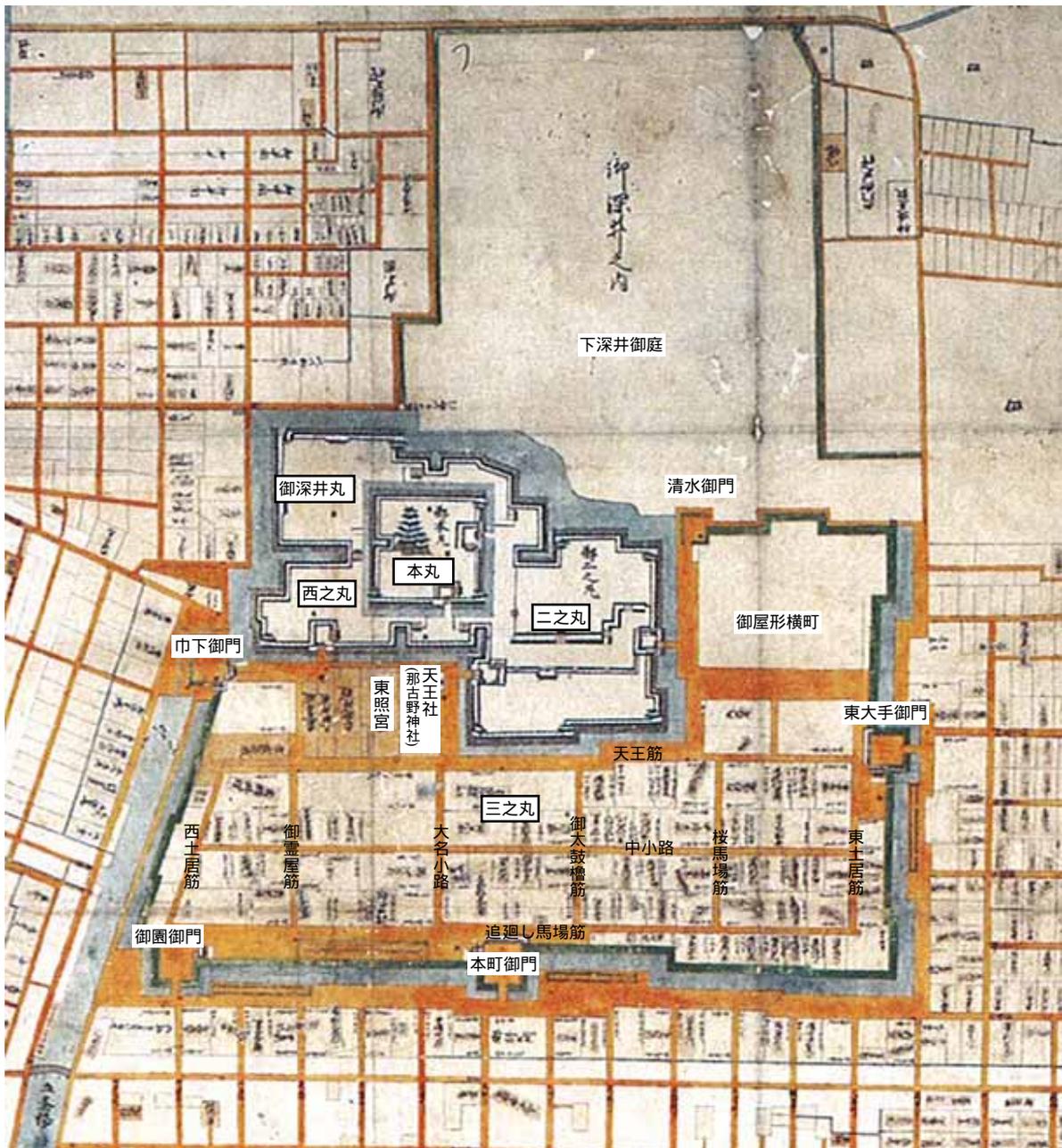
- 名城公園や堀割をはじめとする城郭内の緑地・水辺については、都心に残された貴重な自然環境としての保全を図るとともに、歴史的環境と調和した公園緑地としての役割もふまえた環境整備に努めます。
- 三之丸外堀跡については、城の広がりや城下町との関係が実感できる遺構として保存・活用を図るため、史跡の保存修理を図りながら、案内板の整備や周辺における遊歩道の整備に努めます。



歴史的建造物等 郭内申し合わせ区域 史跡指定範囲 史跡範囲（未告示）

三の丸（官庁街）の風致・景観の維持・向上

- ・戦後、三の丸（三之丸）に形成された官庁街については、「申し合わせ」による建築制限により風致・景観を維持してきた経緯を踏まえつつ、城郭の歴史的環境に配慮した風致・景観の維持・向上を目指します。
- ・官庁街形成の先鞭として戦前に建設され、帝冠様式の格調高い意匠を今に伝える市役所本庁舎・県庁本庁舎が並立する景観を継承し、市民共有の財産としていきます。
- ・上級武家屋敷地として形成された三の丸の歴史をふまえ、江戸期の通り名の由来や風景を語り伝えるなどし、往時の風景が感じられる環境づくりに努めます。



尾府名古屋図（宝永(1704)～正徳(1715)） 名古屋市蓬左文庫蔵

歴史的資源の豆知識 【名古屋城】

名古屋城は、名古屋台地の北端に位置し、北側を湿地帯に面する場所にある。名古屋台地は南が熱田の海に至る南北に長い台地であり、この地は、平安時代から那古野の地名をもって知られており、交通の利便のよい地であった。

徳川家康は、第九子の義直に尾張の地を与え、その居城とするため清洲城を改修しようとしたが、地の利の点などから、この地に城を築くことにし、牧助右衛門ら五名を普請奉行に任じ、慶長15年(1610年)に縄張を実施し、加藤清正、福島正則等西国の大名の二十名に築城助役を命じ、そのうち加藤清正を御城御築総大将役に任じて、これら諸大名の監督に当たさせた。また作事奉行には大久保石見、小堀遠江ら九名を任じて、建築工事に当たらせ、慶長17年に天守閣が完成した。

名古屋城は、その後約250年間、徳川御三家筆頭尾張公の居城とされてきたが、明治時代には陸軍省鎮台、宮内省離宮となり、昭和5年(1930年)には宮内省から名古屋市に下賜され、建物24棟が国宝(旧国宝)に指定された。以後は名古屋市により管理されてきたが、主要な建物は、戦災により焼失し、城跡は昭和27年(1952年)に国の特別史跡に指定された。なお、城跡には、昭和34年(1959年)に鉄骨鉄筋コンクリート造により天守閣が再建されている。(「名古屋の史跡と文化財(新訂版)(平成3年)」などより)



西北隅櫓(重要文化財)



東南隅櫓(重要文化財)



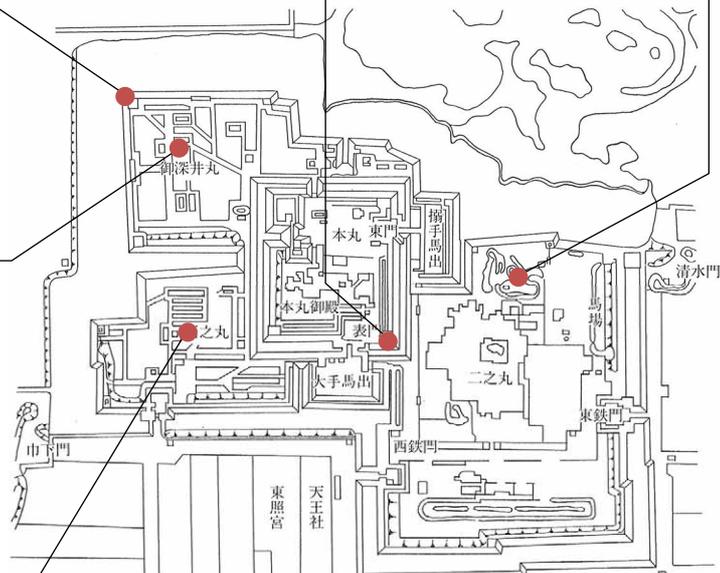
名勝二之丸庭園



乃木倉庫(登録有形文化財)



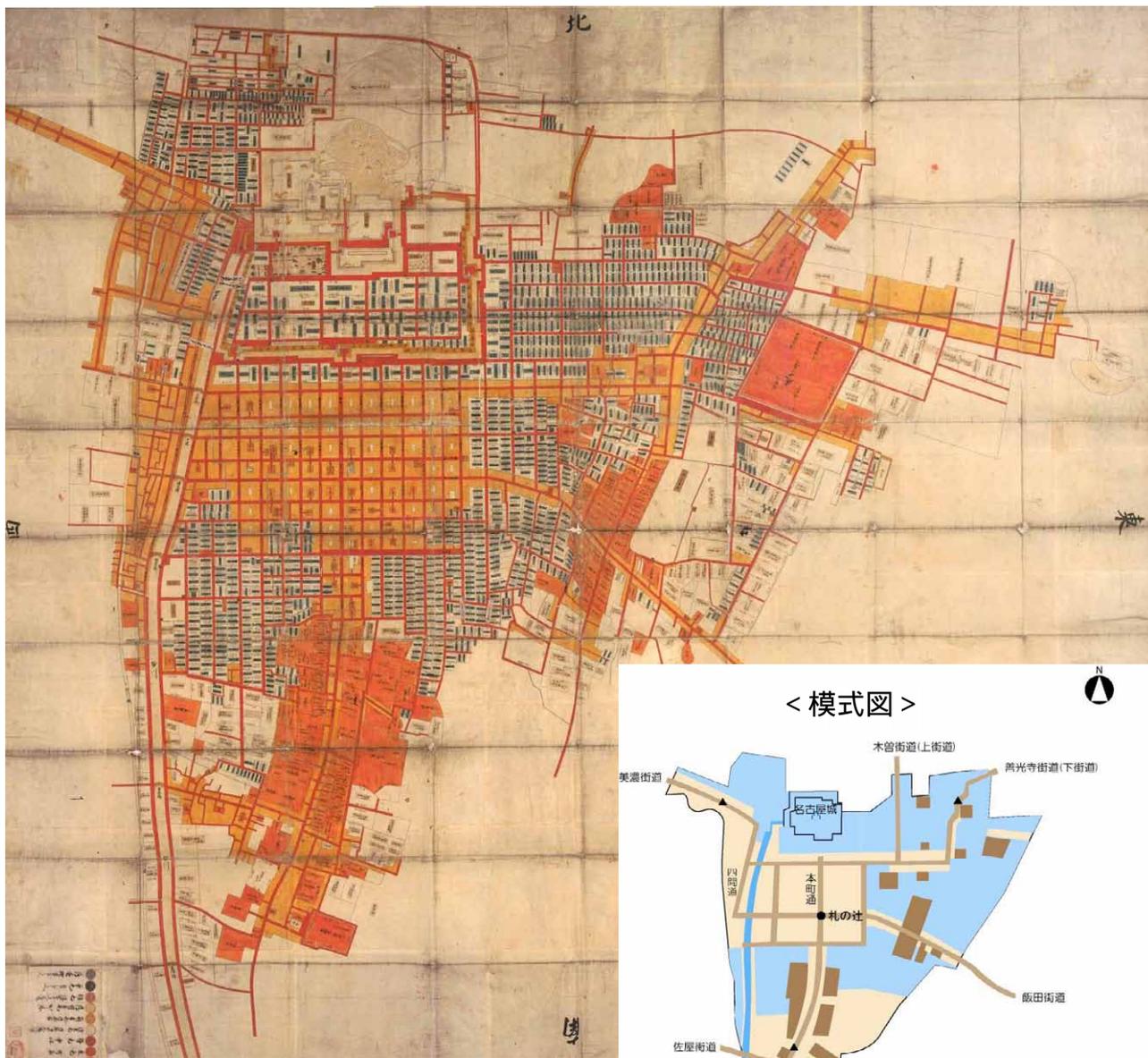
名古屋城のカヤ(天然記念物)



名古屋城城郭全体図(享保14年)

(2) 城下町における界隈の特色を活かしたまちづくり

名古屋城の築城とともに形成され、現在の都心部を構成する旧城下町については、戦災を免れた貴重な歴史的資源を継承していきます。また、碁盤状の町割を継承する城下中心部をはじめ、旧武家地、旧町人地、旧寺町などの歴史的な界隈において、地域の歴史的資源を活かした特色あるまちづくりを推進します。



享保十四酉年名護屋絵図（享保14年） 愛知県図書館蔵

城下中心部

- ・開府当初から継承されてきた碁盤状の町割について、広小路・本町通に代表される江戸期の町名・通り名の由来や風景を語り伝えるなどし、歴史が身近に感じられる都心づくりを推進します。
- ・都心の街区内部に残る社寺地等の緑地の保全に努めます。また、都心部において再開発等を行う際には、かつての閑所の機能・役割を意識し、街区内部において緑地やオープンスペースを効果的に配置するなどし、まちの中庭的役割を内包する集い・憩いの空間の継承・再生に努めます。



旧町名由来総合解説板（中区役所前）



旧町名由来案内プレート

歴史的資源の豆知識 【江戸時代の城下町】

江戸時代を通じて、名古屋は、徳川御三家筆頭尾張 62 万石の城下町として発展を続けた。とりわけ、元禄から享保、元文にかけて時代には七代藩主宗春のとった自由積極政策などによって、文化・経済が一段と隆盛し、東西の文化を取り入れながら名古屋固有の文化をはぐくみ、江戸、大坂、京都に次ぐ盛況をみせるようになった。

城下町の町並みのなかでは、本町通や京町筋、伝馬町筋などに主だった商家が軒を連ねて活況を呈したほか、堀川端に米や塩、肥料などを納める倉庫群や土蔵造りの商家、木曾の木材を扱う材木商などが集められた。また碁盤割の各街区の中央にできた空地地は、「閑所」とよばれて周囲の商家の会合などに利用された。後に、閑所には社寺や長屋が建てられるようになり、これらに通じる路地のことも閑所とよぶようになった。

大須観音や若宮八幡社の境内や門前、広小路（万治の大火の後、堀切筋の一部が 15 間に拡幅されて、広小路とよばれた。）などに、芝居小屋や茶店が立ちならび多くの人々でにぎわっている様子、堀川での舟遊びや堀川端の桜見物を楽しむ人々の様子などを表した図絵が今も残されており、当時の名古屋の景観をしのばせる。

しかし、江戸時代の名古屋の景観を代表するものは何と云っても、「尾張名古屋は城でもつ」と俗謡にもうたわれた、金鯱の輝く 5 層の大天守閣をもつ名古屋城の雄姿であったろう。それは単に天守閣がランドマークとして際立ったというばかりではなく、本丸上洛殿や二の丸庭園等を含めて、名古屋城が近世の武家文化を代表する最高傑作のひとつであった、ということによるものである。

（「名古屋市都市景観基本計画」などより）

城下西部

- ・清須越とともに堀川端に商人町として形成され、現在でも江戸期の土蔵群と町家が残る四間道地区においては、歴史的建造物や町並みを保存・活用し、周辺の水辺（堀川）や商店街（円頓寺）との連続性を活かした界限としての魅力向上を図ります。
- ・町並み保存地区については、地域と行政が連携しながら、旧城下町の面影を残す江戸期の貴重な町並みを持続的に保存・形成していくためのあり方を検討します。あわせて、地区内で長期未整備となっている都市計画道路の見直しを進めます。
- ・四間道地区の歴史的環境の核となる文化財指定されている建造物等については、将来的に保存・活用が図られるように努めます。
- ・美濃街道～四間道周辺における、産業文化や歴史文化の集積を活かし、地域全体の魅力を高める「ものづくり文化の道」構想を推進します。



四間道地区の町並み



四間道地区の町家



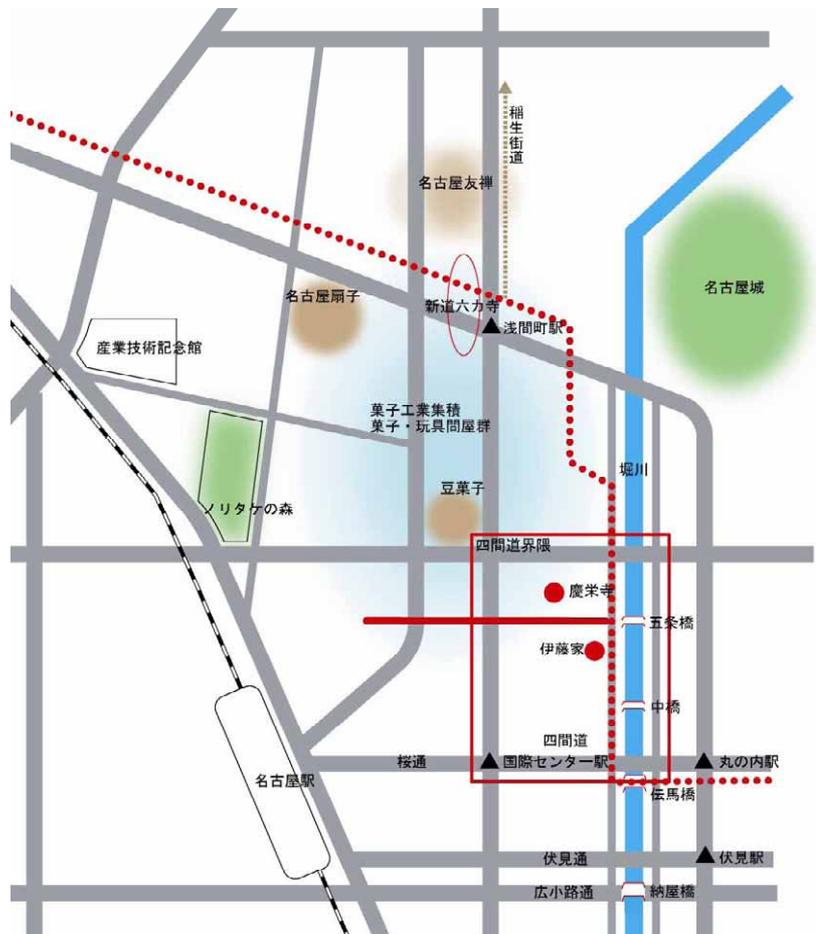
五条橋（堀川）

四間道



四間道町並み保存地区
屋根神様

美濃街道
円頓寺商店街
歴史的建造物



城下東部

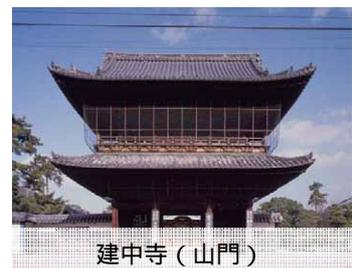
- ・白壁・主税・榑木町筋周辺においては、旧城下町の武家屋敷地の町割を基盤とした門・堀・樹叢からなる町並みを継承するとともに、都市景観形成地区の指定等により、質の高い閑静な住宅地としてのまちなみ形成を図ります。
- ・徳川美術館及び蓬左文庫においては、国宝指定の美術工芸品や多数の古典籍など、尾張徳川家ゆかりの貴重な文化遺産が継承されています。また、大名庭園の歴史を引き継ぐ徳川園を含めた施設全体の歴史的環境の整備を推進するなどし、文化・観光施設としての魅力向上を図ります。
- ・観光ルートバスの運行や、建中寺をはじめとする周辺の歴史的建造物を活かした界隈の魅力向上に努めるなどし、名古屋城とともに近世武家文化を国内外に発信できる環境を整えていきます。



町並み保存地区
(白壁・主税・榑木)



徳川園庭園



建中寺(山門)

歴史的資源の豆知識 【徳川美術館】

徳川美術館は、侯爵 徳川義親氏の寄贈に基づき、尾張徳川家に伝えられた数々の重宝、いわゆる「大名道具」をそっくりそのまま収め、展示・公開している他に例を見ない美術館で、財団法人徳川黎明会（昭和 6 年設立）によって昭和 10 年 11 月、もと尾張徳川家別邸の一角に開設された。昭和 62 年秋には、開館 50 周年を記念して行った増改築工事が完了して、装いも新たにオープンし多くの入館者で賑わっている。

収蔵品は徳川家康の遺品を中心に初代義直（家康第九子）以下代々の遺愛品やその家族が実際に使用した物ばかり一万数千件に及ぶ。世界的にも有名な「源氏物語絵巻」をはじめ国宝 8 件、重要文化財 46 件、重要美術品 44 件を含み、徳川美術館ならではの豊富さ、質の高さ、そして保存状態のよさを誇っている。

（「名古屋の史跡と文化財（新訂版）（平成 3 年）」などより）

歴史的資源の豆知識 【建中寺】

建中寺は二代尾張藩主徳川光友が父義直の菩提を弔うため、慶安 4 年（1651）、城下東方の古井村の地に創建した寺である。周囲は石垣と堀で囲まれ、境内は約 4 万 8000 坪（約 16 万平方メートル、ナゴヤドームの 10 倍以上）の広さをほこった。寺領は 500 石で、尾張藩領の寺院のなかでは最大の寺領を所有していた。境内には、二代光友から 13 代慶藏まで代々の尾張藩主の廟・御霊屋が建立された。天明 5 年（1785）の火事で当初の建物の大半が焼失したが、翌天明 6 年から 7 年にかけて再建された。建中寺は尾張藩浄土宗西山派の触頭で、同派の末寺を支配した。また他の寺院と違い犯罪人の赦免することができる権利を藩から与えられていた。実際には、歴代尾張藩主や一族の葬送、法事の際には赦免や減刑が行われた。

（「開府 400 年記念特別展 名古屋 400 年のあゆみ（名古屋市博物館）」などより）

城下南部

- ・大須周辺においては、門前町周辺の盛り場としての面影を引き継ぐ、特色ある文化施設（演芸場・スタジオ）や商店街などをまちづくりに活かし、下町の文化・賑わいの再生を図ります。
- ・城下町の南端に位置し本町通を軸として形成された橘町周辺においては仏具・仏壇等の伝統産業の集積や、旧商家や社寺等の歴史的建造物などを活かした、界隈の魅力向上に努めます。



大須観音



大須商店街



塗籠造の商家（橘）

歴史的資源の豆知識 【大須観音（真福寺宝生院）】

北野山真福寺宝生院は真言宗、俗に大須観音で著名である。発端は12世紀末頃、尾張中島郡長岡庄大須村（岐阜県羽島市）に建立された観音堂である。14世紀代に伊勢の能信上人が来住し、次第に堂塔、僧坊が造営され、北野山真福寺宝生院と号し、聖観音像を本尊として安置、南朝側の帰依をうけた。ことに、能信は仏教のみならず、広く神道ほかにも通じ、各地を訪れた傍ら書籍の書写を行い、今日の大須文庫の基礎をつくりあげ、15世紀半ばに全盛時代を迎えた。

その後、世が乱れ、また度重なる木曾側の水害によって荒廃したため、徳川家康は、天下の三経蔵と称せられた当寺の貴重な書籍文書類に注目し、洪水を避けて名古屋城下にこれを移した。

しかるに、明治年中、火災にあい、また太平洋戦争の戦禍によって再度すべてを失ったが、幸いにも文庫は災を免れ、本堂の改築も成り仁王門なども復旧した。

（「名古屋の史跡と文化財（新訂版）（平成3年）」などより）

歴史的資源の豆知識 【万松寺】

曹洞宗、山号は亀岳山。能登総持寺の末寺。本尊は千手観音像。古渡城主織田信秀が天文9年（1540）名古屋村に建立し、大雲永端を請して開山とした。信秀の法号万松院桃巖道見より寺号が定められている。慶長15年（1610）名古屋城築城の際、現在地に移った。寺記では天文7年の建立、清須越の寺とするが、『尾張志』はこれを誤りとしている。また、信秀の没（天文20年）後の建立とする説もある。かつて天文10年の織田信秀制札、慶長4年（1599）の福島正則制札などを伝えていた。はじめ白坂雲興寺（瀬戸市）の末であったが、享保8年（1723）総持寺末に改めている。江戸時代には500石を与えられ、堂宇も修造を重ねたが、昭和20年戦災によって焼失した。

（「名古屋の史跡と文化財（新訂版）（平成3年）」などより）

(3) 伝統文化・伝統産業の継承

城下町を中心に発展した名古屋独自の伝統文化や伝統産業については、時代の潮流をふまえつつ、先人の知恵や技術を保存・継承し、次の世代に伝えていきます。

伝統文化の継承

- ・東照宮祭・若宮八幡宮祭・天王祭など、江戸期から続く城下町の伝統祭事や、ものづくりの原点でもある山車・からくりの保存・継承に努めます。
- ・茶、能、舞踊、邦楽、名古屋ことばなど、かつて「芸どころ」と呼ばれた江戸期からの伝統を引き継ぐ名古屋独自の文化について、文化基金の活用等を通じた情報発信や担い手の育成に取り組むなどし、都市の文化魅力の継承・創出につなげていきます。



和泉流狂言



東照宮祭礼図巻（江戸後期） 名古屋市博物館蔵



山車揃え

歴史的資源の豆知識 【名古屋の文化的背景】

名古屋がこの地域の拠点として発展する契機となったのは、1610年の名古屋城の築城開始と、それに伴って清須の町が名古屋城の城下町として移転してきたこと（清須越）にあります。

江戸期においては、尾張徳川家の初代藩主義直、七代藩主宗春など歴代の藩主の多くが、文化や学問の振興に取り組み、さまざまな文化活動が活発になりました。特に茶華道や能など、武家のたしなみとされる文化が花開くとともに、町民にも芝居などの文化が広まりました。また、俳諧、文学、出版、歌舞伎、長唄など、幅広い分野の文化・芸能が飛躍的に盛んになり、「芸どころ名古屋」の気風が培われました。

名古屋は、木曾からの木材の集散地であり、木材を細工する技能に富んだ土地柄です。その流れを受け、江戸時代には、華やかな人形からくりとお囃子を持つ山車が作られ、現在にもその伝統は息づいています。明治以降はその技術が自動車や航空機産業をはじめとする近代産業に発展してきました。また、瀬戸、常滑など良質の陶土の産地が近くにあり、焼き物なども盛んであるなど、現在のものづくり文化の礎となっています。

（「名古屋市文化振興計画」などより）

伝統産業の継承

- ・地域の歴史と風土に根ざし、きめ細やかな「ものづくりの心」を伝え、人々の生活に豊かさと潤いをもたらす伝統産業の振興を図るため、広報・PRなどによる普及啓発や、担い手育成などを推進します。
- ・国際デザインセンター等を通じた異業種間の交流・連携の促進を支援するなどし、先人の知恵と技術を活かした新たな価値の創出を図ります。



名古屋友禅



名古屋仏壇



和菓子（牡丹の花）

歴史的資源の豆知識 【名古屋の伝統産業】

名古屋には、尾張藩の城下町として栄える中で高い技術を有する数多くの産業が育ちました。現在もこれらの産業が数多く残り、長い歴史と文化に培われた伝統産業製品は内外の人々に愛されています。

名古屋の伝統産業としては、「伝統的工艺品産業の振興に関する法律（伝産法）」（昭和49年制定）に基づき、伝統的工艺品として指定されている有松・鳴海絞をはじめとする6品目のほか、名古屋扇子や木桶など様々な品目があります。

これらの名古屋の伝統産業関係業界が密接に連携し、伝統技術・技法の継承、販路の開拓など事業の促進をはかり、その振興と市民生活の向上、地域経済の発展に寄与することを目的として「名古屋伝統産業協会」が、昭和54年9月に設立されました。会員は、名古屋及びその近郊地域において伝統産業にかかる事業を営む事業所で構成する団体で、理事会の承認を得たものです。現在、加盟団体は12業種11団体となっています。

なお、ここでいう伝統産業とは、主として日常生活の用に供されるもので、製造過程の主要部分が手工的であり、伝統的（江戸時代以前の歴史がある）な技術又は技法により製造されるものです。さらに主たる原材料が伝統的に使用されてきたものであることが必要となります。（名古屋市産業経済課）

「伝統的工艺品産業の振興に関する法律（伝産法）」に基づき、伝統的工艺品として指定されている品目

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ・有松・鳴海絞（昭和50年9月4日指定） | ・名古屋仏壇（昭和51年12月15日指定） |
| ・名古屋桐箆笥（昭和56年6月22日指定） | ・名古屋友禅（昭和58年4月27日指定） |
| ・名古屋黒紋付染（昭和58年4月27日指定） | ・尾張七宝（平成7年4月5日指定） |

方針 2 悠久の歴史を誇る熱田の魅力向上

悠久の歴史を誇る熱田神宮を中心とする熱田界隈について、尾張名古屋のルーツを物語るまちとして魅力の向上を図ります。

また、古代熱田と伝承でつながる上志段味や大高一帯について、その歴史的資源を活かしたまちづくりを推進します。

(1) 熱田界隈の重層的な歴史的資源を活かしたまちづくり

熱田神宮を中心に、門前町・宿場町・湊町・漁師町として多面的に発展してきた熱田界隈について、神宮・古墳・街道・宿場・湊・水辺・緑地などの多様で重層的な歴史的資源をつなぎ、尾張名古屋のルーツを物語る歴史集積を活かした拠点として再生します。



熱田の杜

拠点性の強化

- ・旧東海道や本町通、七里の渡し場跡、脇本陣格の旧旅籠など、往時の賑わいを今に伝える歴史的資源を活かしたまちづくりを推進し、賑わいと趣の感じられる空間形成を努めるとともに、鉄道駅周辺の大規模未利用地の活用を図るなど、界隈の拠点性を高めます。
- ・地域の大学などと連携してまちづくりの交流の場を設けるなど、地域・大学・行政の連携を図りながら歴史的魅力を活かした地域の活性化に取り組みます。

回遊性の強化

- ・多様で重層的な歴史的資源をつなぐ散策ルートの設定や、案内板の拡充、歩行者空間等の整備、レンタサイクルの導入を検討するなど、熱田界隈を気軽に巡り、歩きまわりたくなる環境づくりを推進します。
- ・水辺（堀川・新堀川）や緑地（熱田の杜・白鳥庭園等）の保全・活用に取り組むなど、市街地内の豊かな自然環境を活かした界隈の魅力向上を図ります。

歴史的資源の豆知識 【断夫山古墳】

熱田台地の西端に近く、かつては直下に海を望む位置に築かれた東海地方最大の前方後円墳である。全長150m、後円部直径80m、同高さ13m、前方部幅112m、同高さ16mで、6世紀初頭に築造された。

古代、この地方を支配した豪族「尾張氏」の墳墓であろう。長い間熱田神宮によって守られてきた。国指定史跡。

（名古屋市文化財保護室）



断夫山古墳



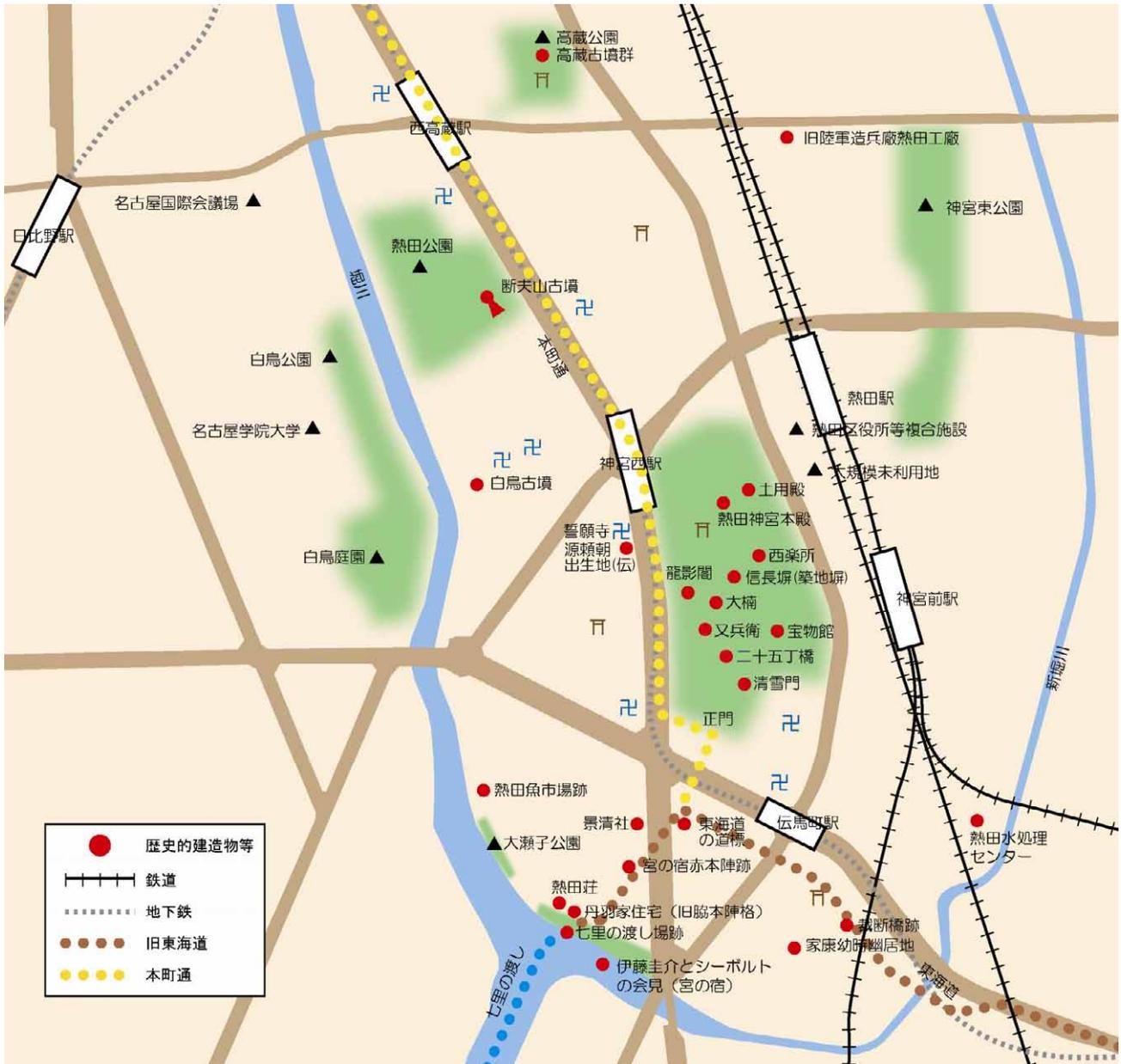
堀川端プロムナード



白鳥庭園



旧陸軍造兵廠熱田工廠



丹羽家(旧脇本陣格)



旧東海道の道標



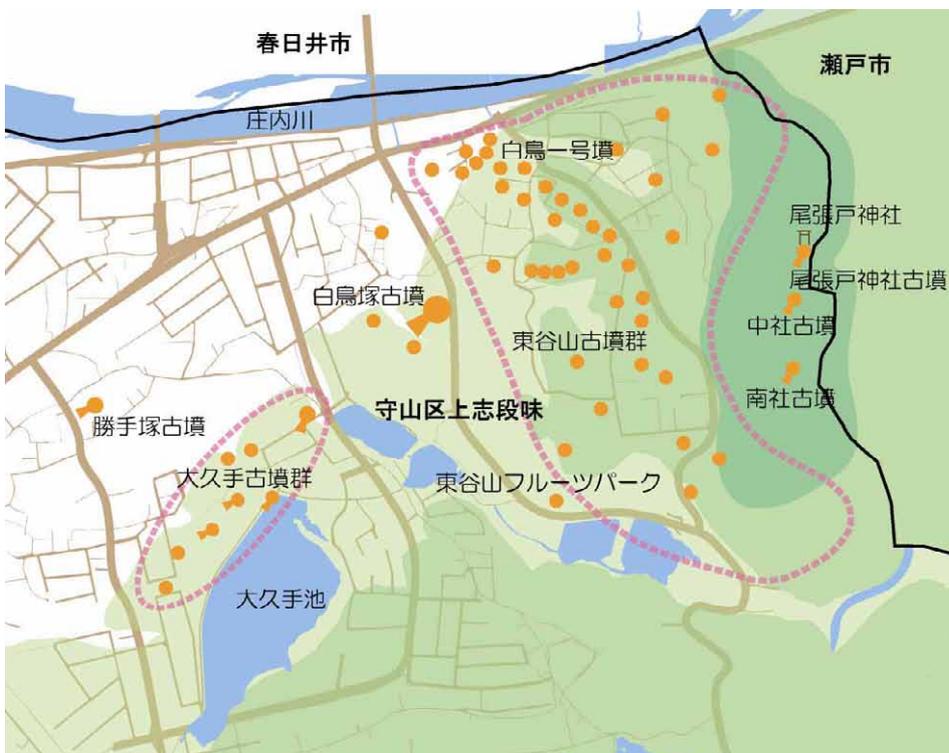
七里の渡し場跡

(2) 熱田ゆかりの地域の魅力向上

尾張氏ゆかりの神社や古墳群などが残る上志段味地区や、ヤマトタケル伝説にも伝えられる氷上姉子神社を有する大高一帯において、悠久の歴史ロマンが感じられるまちづくりを進めます。

上志段味の魅力向上

- ・尾張戸神社や白鳥塚古墳をはじめとする古墳群等の古代の歴史的資源と、東谷山からの庄内川流域の眺望・河岸段丘・ため池・緑地といった豊かな自然環境を活かして保全してゆきます。
- ・国史跡の白鳥塚古墳をはじめ、上志段味地区に残る尾張氏ゆかりの古墳群については、豊かな自然のなかで河岸段丘と共に保存・活用しながら、「歴史の里」として整備を推進します。



尾張戸神社拝殿



白鳥塚古墳



大久手池と東谷山

古墳 (Orange pin icon) 古墳群 (Pink dashed circle icon)

歴史的資源の豆知識 【^{おわりへ}尾張戸神社と東谷山山頂の古墳について】

尾張戸神社は、創建の時期は定かではないが、「延喜式神名帳」に載る山田群の古社。名古屋最高点である標高198mの東谷山山頂に鎮座する。社伝によれば、大永元(1521)年火災により焼失した後、尾張藩二代藩主光友によって、修造復興されたという。本殿は、古墳(尾張戸神社古墳 円墳)の上に建てられ、古代の豪族「尾張氏」の祖先神を祀る。

東谷山稜線上には、この古墳のほか、^{なかやしろ}中社古墳(前方後円墳)、南社古墳(円墳)が築かれている。いずれも4世紀後半に作られた名古屋最古のグループに属する古墳で、山麓の「白鳥塚古墳」とともに、「尾張氏」誕生の鍵を握る重要な古墳である。
(名古屋市文化財保護室)

歴史的資源の豆知識 【氷上姉子神社】

氷上山と呼ぶ丘陵地にある。祭神は宮簀媛命^{みやずひめのみこと}で、熱田神宮の摂社である。
『延喜式神名帳』^{えんぎしきしんめいちょう}に火上姉子神社^{ひかみあねご}、『尾張国本国帳』^{おわりこくほんこくちょう}に「従一位上氷上姉子天神」とある。寛平2年(890)の尾張国熱田大神宮縁起^{えんぎ}によれば、この地は尾張氏の旧里で、宮簀媛命^{みやずひめのみこと}もこの地において、その縁故により、ここに祀られたとされる。

(「名古屋の史跡と文化財(新訂版)(平成3年)」などより)



氷上姉子神社

歴史的資源の豆知識 【大高城跡・鷺津砦跡・丸根砦跡】

【大高城跡】

永承年間(1504~21)の築城、城主は花井備中守と伝える。天文年間(1532~55)には水野忠氏父子の居城となる。水野氏ははじめ今川氏に、のち織田氏に属したため、永禄2年(1559)今川方の鳴海城主山口左馬助教継が攻略、今川義元は鶴殿氏にこの城を守らせた。鷺津・丸根の両砦は、これに対抗して信長が築いたものであるが、連絡を絶たれたこの城への松平元康(徳川家康)の兵糧入れはよく知られる。桶狭間合戦の折は元康が守っていたが、義元の敗死後三河へ戻り廃城となった。元和2年(1616)尾張藩士清水忠宗が城跡に屋敷を設けたが、明治3年廃された。国指定史跡。

(「名古屋の史跡と文化財(新訂版)(平成3年)」などより)

【鷺津砦跡】

永禄2年(1559)、織田信長が今川義元に攻略された大高城に対抗するため、丸根砦とともに築き、飯尾近江守定宗らに守らせた。大高城の東北約700m、丸根砦の西北約400mに位置する。永禄3年5月19日、桶狭間合戦の緒戦に、今川方の朝比奈泰能に攻められて陥ち、定宗らは討死した。国指定史跡。

(「名古屋の史跡と文化財(新訂版)(平成3年)」などより)

【丸根砦跡】

永禄3年(1560・永禄2年ともいう。)今川義元に攻略され奪われた大高城に対抗するため、織田信長が鷺津砦とともに築き、佐久間大学盛重に守らせた。同年5月18日、松平元康の鉄砲を用いた攻撃により陥ちた。大高城の東方約800m、鷺津砦の東南約400mの地点に位置する。国指定史跡。

(「名古屋の史跡と文化財(新訂版)(平成3年)」などより)



鷺津砦跡



丸根砦跡

方針3 有松・堀川など「まち・むら」をつなぐ「道・水」を活かす

城下・熱田と街道等により結ばれた、特色ある「まち・むら」について、固有の歴史的資源を活かしたまちづくりを推進します。また、城下町を中心に周辺諸国や周辺の村々をつないだ街道や、暮らしを支えた河川や用水など、尾張名古屋をつなぐ歴史的な「道」や「水」のネットワークを継承し、まちづくりに活かしていきます。

(1) 尾張名古屋を彩る「まち・むら」の魅力向上

有松の町並み・産業・文化の継承

- ・ 東海道の茶屋集落として古くから多くの人々が往来し、近世の町並み、産業（絞り）、文化（山車）を継承する有松周辺において、地域の歴史的資源を総合的に活用したまちづくりに取り組みます。
- ・ 江戸期からの伝統を伝える商家等の伝統的建造物が建ち並ぶ旧東海道沿いの町並みについては、伝統的建造物群保存地区の導入を検討するなど、地域と行政が連携しながら持続的に町並みを保存・形成していくルールづくりに取り組みます。あわせて、住民や地域が主体となって個々の伝統的建造物を保存・活用していく仕組みづくりに取り組みます。
- ・ 旧東海道については、地域の協力のもと、電線類の地中化や道路舗装の更新を進め、歴史的町並みと調和した街路環境づくりに取り組みます。
- ・ 旧東海道の町並みに近接する地域においても、旧東海道の町並みと調和した景観形成を図ります。
- ・ 伝統産業（絞り）、伝統文化（山車）を継承し、地域のまちづくりに活かします。



旧東海道沿いの町並み



絞りの実演



山車



歴史的資源の豆知識 【有松の町並み】

有松は、旧東海道五十三次の池鯉鮒（知立）と鳴海の宿の間に、慶長 13 年（1608 年）に開かれた村である。当初、尾張藩の奨励により、知多郡阿久比村から移住してきた人々は、両宿の間の茶屋集落として生計を立てていた。しかし、有松は、鳴海の宿にも近く、新開の村で耕地も少なく、茶屋集落としての発展には限界があった。

当時、名古屋城築造に従事していた九州豊後国（大分県南部）の人によって絞染めの技術が尾張の地にもたらされてきていた。一方、有松村民の元の居住地である阿久比村では、農家の副業として、手織木綿が産出されていた。この両者を結びつけて、有松絞を完成させたのが、当初の入植者の一人である竹田庄九郎であった。以降、有松は、絞染めと共に発展した。

有松絞は、尾張藩主にも献上され、藩の手厚い庇護の下にめざましい発展をとげた。そして、その名は全国に知られることになり、有松は、隣の本宿の鳴海にも勝る繁栄ぶりをみせた。

ところが、天明 4 年（1784 年）、大火が起こって、全村のほとんどが焼失した。この時も、藩からは援助の手がさしのべられ、有松は、大火後 20 年ほどでほとんど復興した。これを機に、旧東海道沿いの町家は、従来の萱葺を瓦葺に改め卯建を設け、構造も塗籠造りとしたことから、現在見られるような豪壮な商家が建ち並ぶ町並みが形成された。

絞の販売は、江戸時代には、旅人を対象にした店頭販売が盛んであったが、幕末から明治にかけて、絞商の多くは、全国に販路を求めて卸問屋へ転身し、明治末期に大いに繁栄した。その後有松は、大正期から昭和初期、そして戦後と、その時々々の景気の動向や戦時統制に強く左右されてきたが、有松絞は今も伝統産業として栄えている。

現在、絞染めに関連した用途の建物は、往時に比べると数少なくなっているが、その繁栄の歴史を今に伝える町並みが、旧東海道沿いを中心に残されている。

鳴海界限の魅力向上

- ・ 東海道の宿場町として古くから多くの人々が往来した旧鳴海宿の周辺においては、宿場町の面影を残す旧東海道沿いの町並みや、城跡や芭蕉ゆかりの地等の史跡、寺社地等の緑や扇川などの豊かな自然環境など、一帯に残る多様な歴史的資源を活かした界限の魅力向上に努めます。
- ・ 旧東海道に近接する鳴海駅前においては、市街地再開発事業の推進等による地域の拠点形成を図るなど、地域の生活利便性を高めます。
- ・ 伝統産業（絞り）、伝統文化（山車）を継承し、地域のまちづくりに活かします。



鳴海の町並み



成海神社



鳴海城跡



常夜灯と町並み



笠寺界隈の魅力向上

- ・ 門前町として発展した笠寺界隈においては、尾張四観音の一つとして中世からの歴史を伝える笠寺観音をはじめ、笠寺一里塚、見晴台遺跡など、一帯に残る多様な歴史的資源を活かした界隈の魅力向上に努めます。
- ・ 笠寺公園にある見晴台遺跡は、長年にわたり市民参加による発掘調査を実施しており、見晴台考古資料館の調査研究・展示活動を通じて笠寺界隈の魅力ある歴史情報の発信に努めます。



街道沿いの町並み



歴史的資源の豆知識 【尾張四観音】

名古屋城下の周囲を取り囲むように、西北の甚目寺、東北の龍泉寺、東南の笠覆寺、西南の観音寺の4つの古い寺がある。いずれも観音像を本尊としており、総称して尾張四観音と呼ばれている。

これらの寺々では毎年恵方を定め、2月の節日には盛大な豆まきが行われて、多くの参詣者を集めている。

【甚目寺】

縁起による創建は「推古天皇5(597)年、伊勢の甚目龍麻呂という漁師が海中より紫金の聖観音菩薩を網にかけ、近くに一草堂を建て甚目寺と名付けておまつりした」とされている。発掘調査では白鳳時代(7世紀後半)の単弁蓮華文軒丸瓦などが発見されている。三重塔・南大門・東門、不動尊像・仏涅槃図の国指定重要文化財をはじめとして多くの寺宝が伝わる。

(あま市役所)

【笠覆寺(笠寺観音)】

天平年間(729~749)禅光上人の開基、初め小松寺とあったが、延長年間(923~931)藤原兼平が堂宇を再興して今の寺名とした。当寺には国の重要文化財、県指定文化財等多くの文化財を蔵する。

【観音寺(荒子観音)】

天平元年(729)僧泰澄(たいちょう)の草創と伝え、往古は群中無双の霊場とされたが、後衰退し、現在地より北の高畑村にあったという。永禄年間(1558~70年)全運が再興。天正4年(1576)前田利家により修造されたという。

境内の多宝塔は天文5年(1536)の再建で、国指定重要文化財。市内最古の木造建築物で円空仏1250体余を所蔵している。

【龍泉寺】

伝教大師の創建といわれ、青銅造馬頭観音像を本尊とする。天正12年(1584)長久手の役で戦火のため焼失し、慶長年間(1596~1615)秀純和尚が再興した。仁王門と木造地藏菩薩立像は国の重要文化財に指定されているほか、多数の円空仏を蔵することで名高い。

(「名古屋の史跡と文化財(新訂版)(平成3年)」などより)



荒子界隈の魅力向上

- ・中世の時代が開墾された農村として、また荒子観音の門前町として古くから集落を形成してきた荒子界隈においては、市内最古の建造物や多数の円空仏を有する荒子観音をはじめ、前田家ゆかりの荒子城跡など数多くの歴史的資源があります。それらの歴史的資源の集積を活かしたまちづくりを推進します。
- ・また、鉄道事業者等と連携して歴史的資源を巡るウォーキングを開催するなど、複数の鉄道駅に近接した立地を活かしたまちづくりを促進します。



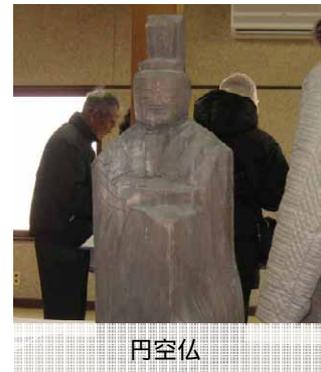
古くからの集落



前田利家像（荒子駅前）



観音寺多宝塔



円空仏

歴史的資源の豆知識 【荒子城跡】

前田利家の父利昌の築城と伝えられている。利昌は二千貫の地を領して当城に住み、利家の兄利久、利家、その子利長と嗣いだが、天正3年（1575）織田信長により利家が越前国府中に封ぜられ、同9年には利長も府中に転じて廃城となったとされている。『寛文村々覚書』によれば、東西約68m、南北約50mであったが、この頃すでに畠となっていた。現在宅地・耕地化によって城跡は詳かでないが、かつては西に城濠の跡とつたえる小川があり、これに架る橋を古城橋と称していた。ここを前田利家の出生地とする説もあるが、確証はない。

（「名古屋の史跡と文化財（新訂版）（平成3年）」などより）



天満天神宮

(2) 道の歴史を活かしたまちづくり

城下と熱田を結んだ本町通や、周辺の諸国や村々をつないだ街道の歴史を継承し、道を通じて身近に歴史が感じられるまちづくりを推進します。

本町通における歴史の見える化の推進

- ・ 城下町の町割の中心軸であるとともに、城下町と宮の宿（東海道）とを結ぶ道として重要な役割を担ってきた本町通において、歴史の見える化を推進します。
- ・ 既存のサインの整理や、旧町名・旧通名のプレートや道標の設置等を検討するなど、城下町の骨格としてまちを支えてきた歴史を伝えていきます。
- ・ 歴史の見える化にあたっては、本町通と並行して城下町と宮の宿（東海道）をつなぐ都市軸として城下町を支えてきた堀川まちづくりとの連携を図りながらすすめます。



江戸期の本町通（尾張名所図会）



現在の本町通



札の辻



東海道における「歴史みちづくり」の推進

- ・江戸期の東西交通の大動脈であり、城下町～熱田と周辺諸国を結んだ東海道においては、江戸期の面影を残す街道・沿道の歴史的環境の継承・再生や、街道周辺の豊富な史跡や文化を活かしたまちづくりを推進します。
- ・江戸期の面影を残した沿道の景観や、周辺の豊富な史跡や伝統文化などを活かした、歩いて楽しい道づくりを推進します。
- ・既存のサインの整理や、旧東海道の歴史を物語るプレートの設置を検討するなどし、旧東海道らしさや一体感の演出を図ります。
- ・歩行者ゾーンの明確化や、コミュニティ道路の導入等による通過交通の制御についても検討しながら、歩行環境の改善を図ります。



笠寺



鳴海



有松

歴史的資源の豆知識 【笠寺一里塚】

名古屋市内旧東海道の唯一の一里塚である。一里塚は道程一里(約 4km)毎に塚を築きその中央に榎などを植えたものである。街道の左右に設け旅人に距離を示しただけでなく、荷物その他運賃計算の基準にもなった。

笠寺観音から東南約 600m、道の東側に直径約 10m の円丘がある。これが一里塚で、高さ約 2~3m の土盛りの塚。中央の榎は老木で幹の一部が空洞になっている。西側の一里塚は取り壊された。江戸から 88 里にあたる。

(「名古屋の史跡と文化財(新訂版)(平成3年)」などより)



笠寺一里塚

歴史的資源の豆知識 【あゆち潟】

年魚市(あゆち)潟は、鳴海から熱田にかけての海辺の湾入した遠浅の地形をさしていったようである。万葉集の歌枕として名高く「年魚市潟 汐干にけらし 知多の浦に 朝漕ぐ船も 沖に寄る見ゆ」「桜田へ 鶴鳴き渡る 年魚市潟 汐干にけらし 鶴鳴きわたる」が代表的な歌となっている。

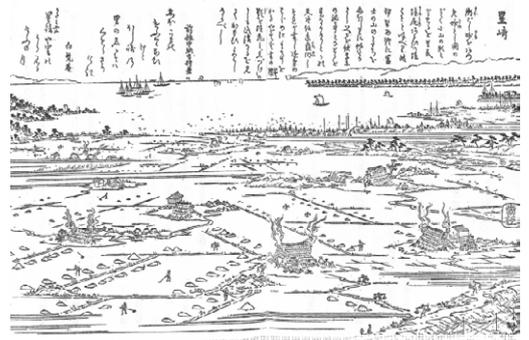
「あゆち」は「あいち」と転じ、県名の語源となったと言われる。また「あゆ」は東風とか湧き出るとかの語意があり、東風の吹く所とする説、湧水に富む所とする説などがある。

南区岩戸町の白毫寺の境内は、かつての年魚市潟を展望できる場所の一つとして残り、その一部が市指定の名勝となっている。境内には勝景址の碑や黒田清綱の歌碑、芭蕉の句碑などがある。今は陸地と化したのが、古代から景勝地として、万葉歌人などが歌を詠んだところである。

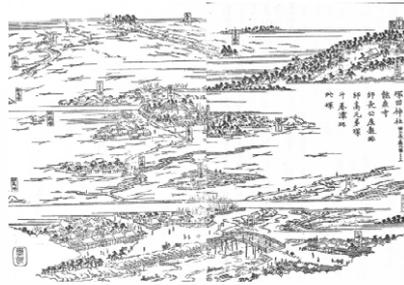
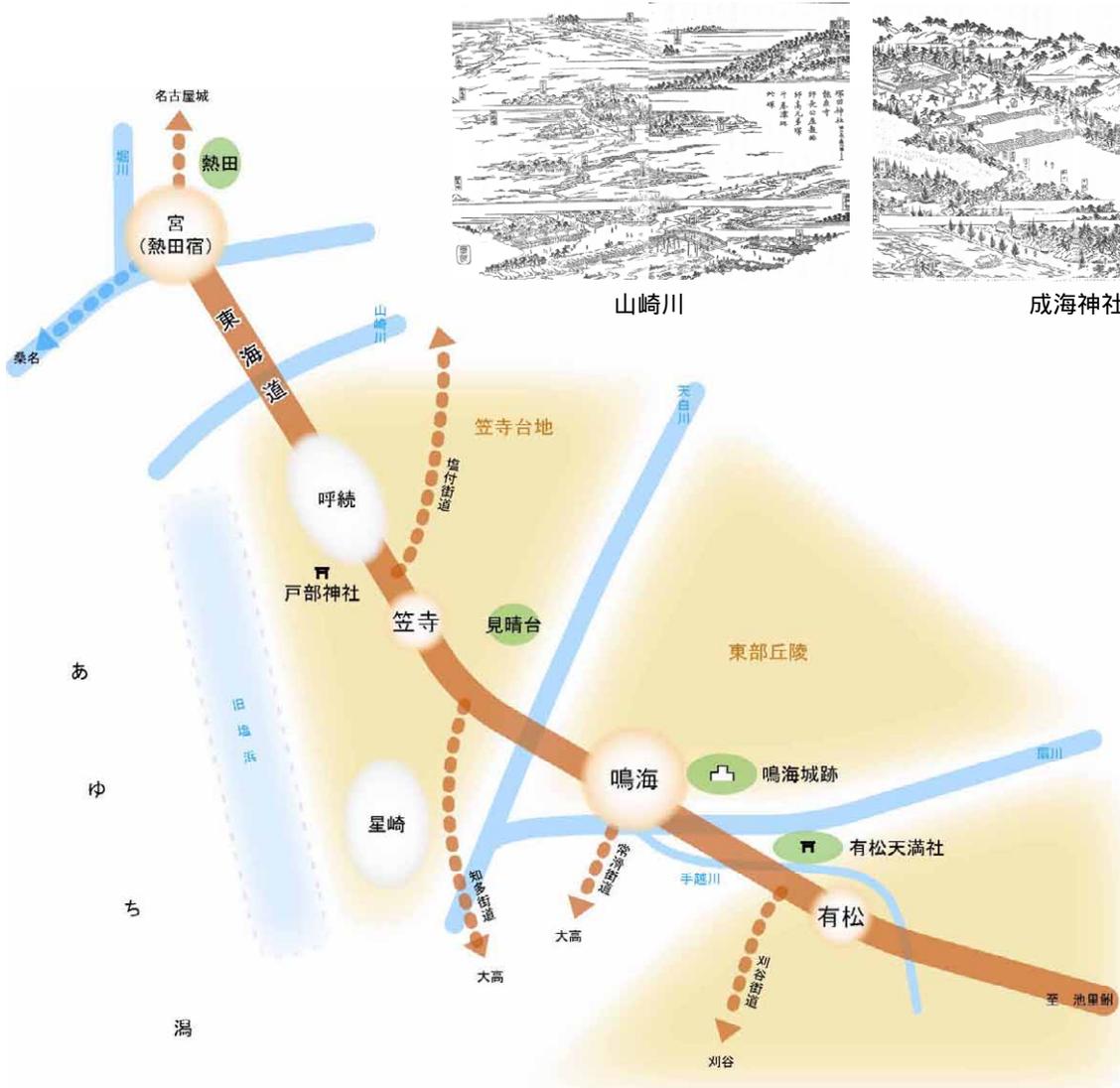
(「名古屋の史跡と文化財(新訂版)(平成3年)」などより)



笠寺観音



星崎



山崎川



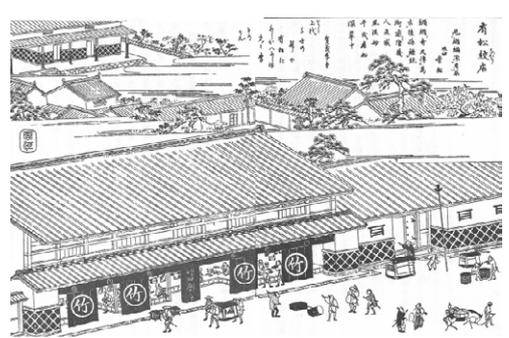
成海神社



星の宮 (星崎)



瑞泉寺 (鳴海)



有松

街道の歴史を活かしたまちづくり

- ・旧街道にまつわる歴史的資源の保存・活用を図ります。
- ・旧街道沿いにおいて、街道の歴史を語る案内板等の充実や、地域と協力しながら歴史的風合いの感じられる道路環境の整備（コミュニティ道路・緑道の整備など）を図るなど、歴史が感じられる道づくりを推進します。
- ・旧街道沿道の史跡、歴史的建造物、レトロな風景などの歴史的資源を活かすなど、沿道の歴史的環境づくりに取り組みます。
- ・街道でつながる歴史・文化を共有する周辺市町村と連携するなどし、街道を介した都市間交流を促進します。



佐屋街道案内板



(3) 水の歴史を活かしたまちづくり

城下町と熱田(湊)をつなぎ、城下町の物流・生活文化を支えた「名古屋の母なる川、堀川」を「うるおいと活気の都市軸」として再生します。また、河川・用水・ため池・井戸など、城下と周辺の村々の暮らしを支えてきた水のネットワークを継承・再生し、歴史が感じられる水辺環境の形成を推進します。

堀川の再生

- ・材木、塩や年貢米をはじめ、名古屋城下の物流をになうと共に、花見や舟遊びを楽しむ憩いの場所であった堀川について、黒川樋門・松重閘門・物揚場石畳・白鳥貯木場水門などの歴史的資産の保存・活用を図り、堀川とともに歩んだ名古屋の歴史を次世代に伝えます。
- ・堀川開削以来の長い歴史を持つ五条橋、納屋橋などや、明治期以降の産業都市化を支えた岩井橋や住吉橋などの橋梁については、それぞれの独特の意匠の継承・修景を図るなど、歴史が感じられる水辺景観の形成に努めます。
- ・市民と連携した水辺文化(熱田まつり、堀川まつり<まきわら船>など)の復興と継承を図ります。
- ・庄内川等からの導水、下水道の整備、ヘドロの除去などにより河川水質の浄化を図り、河川環境を改善します。
- ・親水広場や遊歩道(リバーウォーク)の整備を進めつつ、水辺に容易に近づける歩行者通路などを敷地内や建物内に確保するなど、堀川へのアクセス性を高め、河川空間との一体感の創出に努めます。
- ・納屋橋周辺については、親水広場や遊歩道をオープンカフェやイベントなどの賑わいと憩いの空間として活用するなど、都心の水辺空間における活動の多様性を拡大します。
- ・堀川に顔を向けた土地利用を誘導・促進(堀川を望むテラスを設置した飲食店など)し、水辺がより身近に感じられるまちづくりを進めると共に、四間道界限などの歴史的資源を活かし、趣のある沿岸のまちづくりを進めます。
- ・旧城下と熱田を結ぶ観光航路としての河川利用を促進するなど、水運を活かしたにぎわいづくりを推進します。また、七里の渡しで結ばれた桑名との結びつきを意識した広域的な連携に取り組みます。

歴史的資源の豆知識 【黒川の開削・埋立てによる下流部の延伸】

開削当時(慶長15年(1610))の堀川は、名古屋城西の幅下から熱田まででした。

明治9~10年(1876~1877)に犬山と名古屋をむすぶ舟運と農業用水の取水を目的に、守山区水分橋で庄内川から分岐し、矢田川の下を伏越し堀川にそそぐ川(この川は担当した技師、黒川治愿の名前から「黒川」と呼ばれています。)がつくられました。

明治16年(1883)には新木津用水が改修され、従来は木曾川経由で7日かかって輸送されていたのがわずか4時間に短縮され、明治19年(1886)から大正13年(1924)までは、愛船株式会社による運送事業が行われていました。下流では江戸時代には新田開発、明治以降の名古屋港の築造、工業用地の造成のために埋立てが行われ、これに伴い堀川も延伸され、現在の姿になりました。

(「堀川の歴史」リーフレットより)



元杵樋門

かつてこの樋門の中を、荷物を満載した舟が行き来していました。



堀割を意識した広場整備



納屋橋



まさわら船



黒川樋門（再建）



北清水親水広場



岩井橋



堀川と沿岸の店舗



納屋橋と旧加藤商会ビル



船着場（納屋橋）



名古屋名所団扇絵「堀川 花盛」



戦略 世界の産業文化都市・名古屋のまちづくり資産を活かす

世界のものづくりをリードする産業文化都市への発展を支えた都市基盤や往時に活躍した人々に関連する歴史的資源、大胆な都市計画により形成された戦災復興のまちづくり資産などを活用・再生し、成熟社会にふさわしい、環境と人にやさしい都市空間の形成を目指します。

方針1 名古屋の近代化・産業発展を支えた屋台骨の再生

方針2 近代名古屋のハイカラ文化を活かす

方針3 戦災復興により形成された資産を活かす



まちづくり資産を活かした空間形成のイメージ

方針1 名古屋の近代化・産業発展を支えた屋台骨の再生

名古屋の近代化・産業発展を支えた都市基盤や、中部圏の産業発展の歴史を物語る産業施設等について、大都市名古屋の骨格を形成した歴史的資源として捉え、これらを活用・再生したまちづくりを推進します。

(1) 近代名古屋の都市基盤を活かしたまちづくり

名古屋の近代化・産業発展を支えた、運河、港湾、水道施設、公園等の都市基盤について、大都市名古屋の骨格を形成してきた歴史的資源として捉え、活用・再生を推進します。

中川運河の再生

- ・ 都心と名古屋港を結ぶ物流幹線軸として名古屋の産業・経済の発展を支えた中川運河について、物資輸送基盤としての役割が低下する中で、運河のもつその他の様々な機能や可能性の向上に着目し、「交流機能の充実」、「港湾機能の持続的発展」、「環境機能の向上」、「防災・安全機能の向上」という4つの目標を掲げ、『水辺交流環境軸』としての再生をめざします。
- ・ 昭和の歴史を物語る歴史資産である松重閘門、中川口閘門、沿岸の倉庫群、橋梁など、運河の歴史的建造物等の保存・活用をすすめます。
- ・ 市民協働による運河周辺の界隈づくりとして、運河にゆかりのある神社を活用した中川運河まつりの復活、運河の歴史を伝える市民サポーターやガイドボランティアの育成等についても検討をすすめます。
- ・ 運河の建設とともに形成されてきたまちの歴史（汎太平洋平和博覧会の開催など）が身近に感じられるような、運河周辺のまちづくりを推進します。

歴史的資源の豆知識 【中川運河と産業】

中川運河は、名古屋港背面において枢要な位置を占める工場地帯と名古屋港とを連携する動脈としてのみならず、市勢発展の中核をなす唯一の血行機関であった。

沿岸工場地帯には、岡谷鋼機、中京金属、中部共同油脂、三麟無煙炭、日清製紡、旭硝子、瀧上工業、日本燃料、徳島興業、中央木材、日本煉炭等の工場があった。運河沿いには、三菱倉庫、日本通運、名港海運、伊勢湾海運、栃木汽船、浅野運輸倉庫等の倉庫運輸業者が、倉庫や野積場を設置していた。堀止船だまりには、東陽倉庫、三井倉庫、四日市倉庫等が笹島駅に隣接して倉庫を有していた。

昭和26年当時の中川運河の主な出入貨物品は、入貨が米穀類、石炭、鉄鉱石、土石（砂利、砂、碎石、煉瓦等）、金属、砂糖、木材、油類、薬品、セメント、塩などで、出貨が陶磁器、金属、鉄鉱石、土石、機械類等であった。

（「中川運河の利用状況について」名古屋港管理組合 昭和27年6月より）



運河開削時の堀止船だまり



物流最盛期の中川口閘門



松重閘門



運河神社(上宮)



猿子橋



中川運河チャネルアート

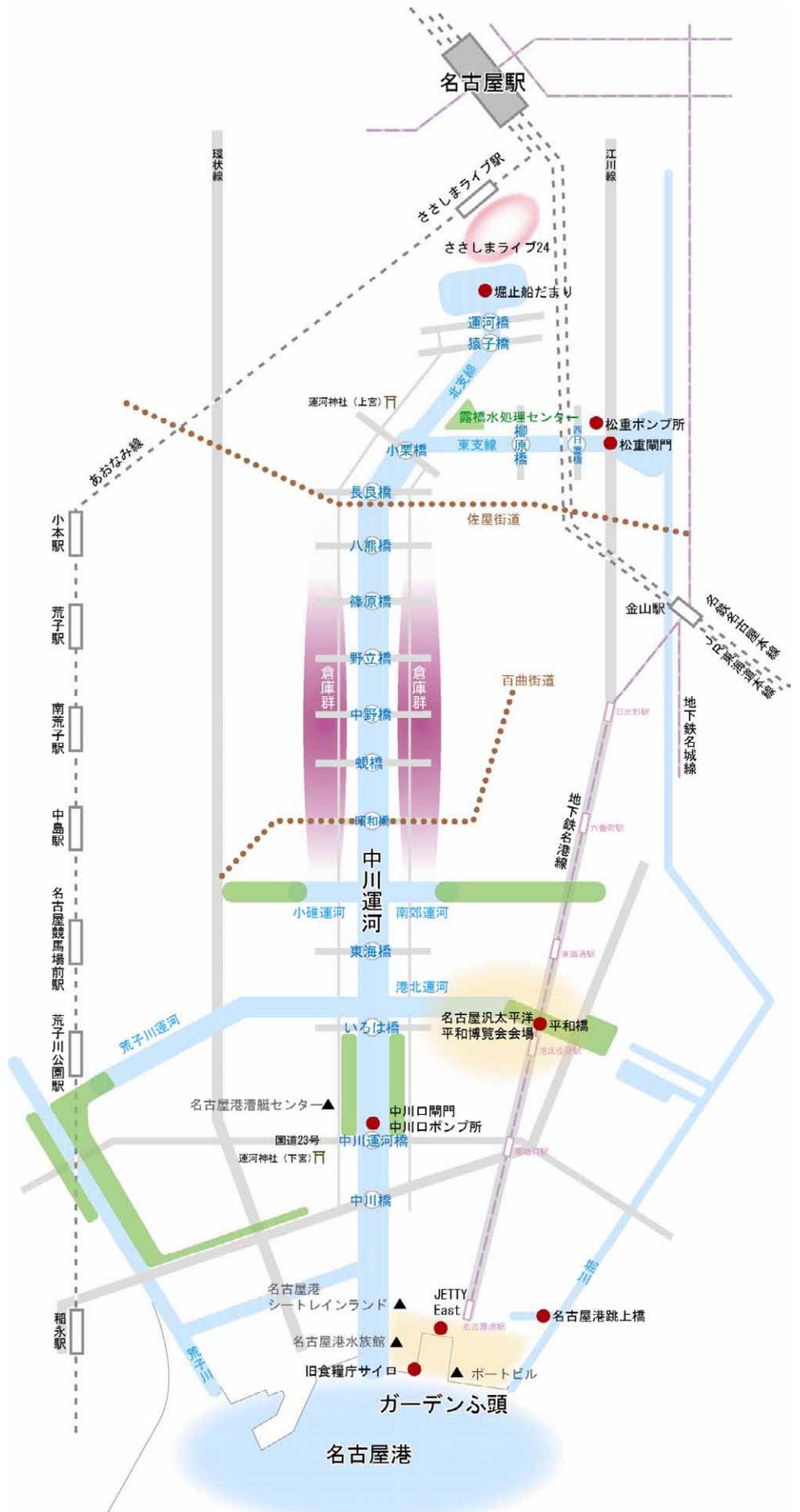
撮影：秦義之



運河沿岸の倉庫群



中川口閘門



名古屋港（ガーデンふ頭）周辺の魅力向上

- ・名古屋港（ガーデンふ頭）周辺については、名古屋の海の玄関として形成・発展してきた歴史をふまえ、周辺に残る歴史的資源や建造物を保存・活用しながら、水辺環境を活かした観光交流拠点づくりを推進します。



名古屋港ガーデンふ頭



名古屋港跳上橋



穀物サイロを活用した公園

鶴舞公園の景観・風致の維持向上

- ・開府 300 年にあわせた博覧会を機に、後の製造業発展に大きく貢献した精進川（後の新堀川）改修とその浚渫土砂による造成により整備された鶴舞公園（名古屋市が最初に設置した都市公園）について、公会堂・噴水塔・奏楽堂・普選壇などの歴史的な建物や記念碑の保全を図るなど、風格が感じられる公園環境を継承します。
- ・鶴舞公園内の池や水辺、八幡山古墳など、歴史的な自然環境の維持向上に努めます。



鶴舞公園



噴水塔



奏楽堂

歴史的資源の豆知識 【新堀川】

新堀川は、かつて精進川と呼ばれ 1905（明治 38）年から着工した改修工事の堀さく土をもって熱田工場敷地を埋め立て、その残土をもって鶴舞公園敷地を埋め立てた。1910（明治 43）年に竣工後、新堀川と名称が変更された。沿岸には、日本車両製造熱田工場、名古屋瓦斯（現東邦瓦斯）がそれぞれ建設され、原材料は新堀川から陸揚げされた。その後も沿川には木材業を始めとする会社、工場などが進出し、新堀川は東部商工業地帯における重要な河川として年々その利用が増加し、その出入貨物量は 1937（昭和 12）年にピークを達した。戦後においては、大型工場の転出、陸上輸送機関の増強により出入貨物は急速に衰退し今日に至っている。2010 年は、新堀川が通水して 100 年に当たる。

（一級河川庄内川水系堀川圏域河川整備計画などより）

歴史的資源の豆知識 【鶴舞公園】

鶴舞公園は、明治 42 年に名称を定め明治 43 年、第 10 回関西府県連合共進会会場とした。当時の会場建物は仮設的なものであったが、噴水塔と奏楽堂はひきつづいて使用する公園施設として計画され、名古屋高等工業学校（現、名古屋工業大学）教授鈴木禎次が設計している。

噴水塔は、第 10 回関西府県連合共進会を記念して建設された。本格的な古典主義のデザインに基づく 8 本のトスカナ式オーダーによる円柱をめぐる円堂形式の噴水塔である。市指定文化財。

普選壇は、大正 14 年の普通選挙法成立を記念したものであり、設計は日比谷公会堂など多くの作品を手がけた佐藤功一が担当。簡素な屋外ステージであるが、美しい比例寸法で構成されている。

（「名古屋の史跡と文化財（新訂版）（平成 3 年）」などより）

水道施設の保存・活用

- ・名古屋の生活と産業活動を支えてきた水道施設（鍋屋上野浄水場旧第一ポンプ所、東山給水塔（旧配水塔）、旧稲葉地配水塔など）について、その歴史を伝える歴史的建造物等の保存・活用を図ります。
- ・施設の市民開放を推進するとともに、良好なランドスケープの形成を図るなど、まちづくりに貢献する施設整備を図ります。



鍋屋上野浄水場旧第一ポンプ所



東山給水塔（旧配水塔）



名古屋市演劇練習館アクテノン
（旧稲葉地配水塔）

歴史的資源の豆知識 【名古屋の水道】

【上水道】

名古屋に初めて水道がひかれたのは、1663年、今から約340年前の江戸時代でした。勝川(庄内川)から水をひいて名古屋のお堀に入れたもので、御用水とよばれました。さらに、ここから竹のくだや木のといで、井戸やためますに水を送っていました。

名古屋市に現在のような近代的な水道ができたのは、大正3年(1914年)です。それまでは井戸水を使っていたため、赤痢やコレラなどの伝染病が流行し、また火事を消す水も足りませんでした。

このためじゃ口をひねるといつでもきれいな水が出る近代的な水道の建設が必要になっていました。

最初に内務省衛生局顧問であったW・K・バルトン氏によって計画された水道は、犬山市の入鹿池を水源にしていましたが、その計画は見送りとなり、かわって愛知県技師の上田敏郎氏の、木曾川から水をひく計画が実行にうつされました。

給水開始当時は、給水能力も一日あたりわずか5万1,200立方メートルでしたが、その後、市が大きくなり人口もふえるにつれ、水道の施設も8回の拡張工事をかさね、現在では、給水能力は一日あたり142万4,000立方メートルとなっています。

【下水道】

明治26年(1893年)、名古屋市は下水道の調査をW・K・バルトン氏に委嘱しました。バルトン氏が作成した「名古屋市下水道工事設計書」は実施に至らなかったものの、本市の下水道計画の基礎になり、10年後の明治36年(1903年)に本市の委嘱を受けた県技師上田敏郎氏が「緊急下水道計画」を作成し、諸事情によって分流式から合流式に変更し事業を実施しました。明治41年に、名古屋の下水道の創設工事がはじまり、大正元年(1912年)11月に初めて供用を開始しました。

こののち昭和5年(1930年)に日本で初めての散気式活性汚泥法による下水処理を堀留、熱田で開始し、いち早く近代下水道の整備をはじめています。

市の発展とともに下水道の拡張工事を鋭意すすめ、現在、市域周辺の一部の整備につとめています。

(名古屋市上下水道局)

(2) 産業集積地の歴史を活かしたまちづくり

世界のものづくりをリードしてきた、中部圏の産業発展の歴史を物語る産業施設等の保存・活用に取り組むなど、産業集積地の歴史的な経緯を活かしたまちづくりをすすめます。

産業施設の保存・活用

- ・名古屋の近代化・産業発展の面影を残す古い工場や倉庫等について、コンバージョン（用途転換）に取り組むなど、産業施設の保存・活用を推進します。
- ・産業施設の保存・活用に取り組む産業技術記念館やノリタケの森については、ものづくりのまち名古屋の歴史を今に伝える代表的な施設として、これらの施設を核とした産業観光を推進します。
- ・使われなくなった古い工場や倉庫、空きビルなどを現代芸術の舞台（トリエンナーレなど）として活用するなど、使われなくなった建物に新たな光を当てる取り組みを支援・推進します。



ノリタケの森
(旧日本陶器製土工場)



産業技術記念館
(旧豊田自働織布工場)



あいちトリエンナーレ(長者町)

土地利用転換時における記憶の継承

- ・産業施設等において、やむを得ず土地利用転換をする際には、周辺の都市形成・産業発展の歴史を振り返り、その歴史がその場所で伝えられるよう、施設の一部を記念碑として保存するなど都市の記憶の継承に努めます。

歴史的資源の豆知識 【名古屋汎太平洋平和博覧会】

昭和12年(1937)に現港区の埋立地を会場に名古屋汎太平洋平和博覧会が開催された。これは戦前日本における海外からの参加も実現した最初の国際的な博覧会であり、環太平洋地域から29か国・地域はじめ都市の単独参加を含めて、総計37か所からの参加をみた。3月15日から5月31日まで、のべ78日間わたる会期中の総入場者は466万人に達し、第2次世界大戦に突入する前の文字通り平和な祭典となった。

この年には名古屋市街地の東部丘陵地帯に東山公園(動物園・植物園)が開園し、新しい名古屋駅も竣工。駅前の目抜き通りとして桜通も整備され、また市内で初めての国際的なホテルも営業を開始した。

(「開府400年記念特別展 名古屋400年のあゆみ(名古屋市博物館)」などより)



名古屋汎太平洋平和博覧会
絵葉書(昭和12年)
名古屋市博物館蔵

方針 2

近代名古屋のハイカラ文化を活かす

近代名古屋の産業発展を担い大都市名古屋の礎を築いた起業家の進取の気風や、大正～昭和初期のハイカラ文化を活かしたまちづくりをすすめます。

(1) 「文化のみち」の推進

市役所本庁舎や市政資料館などの格調高い意匠の近代建築や、近代名古屋において活躍した進取の起業家や文化人が建築した特色ある近代洋風住宅など、多くの歴史的資源が残る名古屋城から徳川園にかけての一角を、「文化のみち」として育み、近代名古屋の息吹が身近に感じられるまちづくりを推進します。

「文化のみち」の推進

- ・白壁・主税・榎木地区を始め「文化のみち」一帯に残る、特色ある優れた近代洋風住宅などについては、景観重要建造物の指定などを通じて、これらの維持に努めるとともに、NPOなどと協働しながら、市民に親しまれる施設としての保存・活用を推進します。
- ・市民公開施設については、展示や企画の充実等により個々の施設の魅力を高めるとともに、施設間の連携や、地域と連携したイベントの実施、市内外へのPRなどを通じて、地域の魅力を高めることにつなげていきます。
- ・名古屋城から徳川園にかけての一角をつなぐ散策ルートの充実や、観光ルートバスの運行など、「文化のみち」の回遊性を高める方策についての検討を進めます。



出典：「文化のみち総合案内板」より

歴史的資源の豆知識 【「文化のみち」における主な歴史的建造物】

市政資料館（旧名古屋控訴院・地方裁判所・区裁判所庁舎）【重要文化財】

地方裁判所と区裁判所を含む名古屋控訴院の庁舎として大正 11 年（1922）に建設。全国 8 か所に建てられた控訴院のうち現存する最古の庁舎。正面ドーム屋根の塔屋を設けたネオ・バロック様式の 3 階建てで、赤い煉瓦壁と白い花崗岩の対比の美しい日本の近代建築における大正末期の動向を忠実に表現した官庁建築である。

昭和 55 年（1980）より活用方法が検討され、改修後平成元年（1989）名古屋市市政資料館として開館した。

文化のみち二葉館（旧川上貞奴邸）【登録文化財（一部）、景観重要建造物】

かつて二葉御殿と呼ばれたこの建物は、電力王と称された福沢桃介が国内最初の女優と言われる川上貞奴のために大正 9 年（1920）頃、わが国最初の住宅専門会社アメリカ屋に造らせた邸宅の遺構で、2 階建ての主屋と別棟の蔵で構成される。

平成 16 年 10 月に現在地に移築復元され、現在は、文化のみち二葉館として活用されている。

文化のみち榎木館（旧井元為三郎邸）【市指定有形文化財、景観重要建造物】

陶磁器商として活躍していた井元為三郎が大正末期から昭和初期にかけて建てられた邸宅。約 600 坪の武家屋敷の敷地割に、庭を囲むように大正浪漫あふれる洋館、和館、茶室があるほか、裏庭に東西二棟の蔵が残されている。洋館には、当時の流行を先取りしたステンドグラスがあり、現在は、喫茶室も併設されている。

旧豊田佐助邸

豊田佐助は、自動織機の発明で世界に名を馳せた豊田佐吉の実弟で、大正 12 年（1923）に佐助の邸宅として建てられた。白いタイルの洋館と広い間取りの和館からなる。戦後期（昭和 20 年代前半）は米軍に接収され、高級将校用住宅として使用された。その後、昭和 45 年（1970）にアイシン精機株式会社に所有権が移り、社員寮として使用されていた。

旧春田鉄二郎邸【景観重要建造物】

陶磁器貿易商として成功し、大洋商工株式会社を設立した春田鉄次郎が、武田五一に依頼してつくった住宅といわれている。昭和 22 年（1947）から昭和 26 年（1951）まで、米軍第 5 航空隊司令部により接収されていた。現在 1 階洋館部分は、レストランとして活用されており、中庭をはさんだ和館部分は公開施設として利用されている。

金城学院高校榮光館【登録文化財、都市景観重要建築物】

スペイン瓦に清楚な白壁が美しい建物。当時の榮光館の建設費 17 万円は生徒の毎月 10 銭の積み立て、先生の毎月給料の中から寄付、父兄会の募金などによって集められた。創立 90 周年の際、建て替え案が出されたが、故近藤武一学長の強い意志で残された。

名古屋陶磁器会館【登録文化財、景観重要建造物】

昭和 7 年（1932）に、当時の名古屋陶磁器貿易商工同業組合の事務所として建設された。鉄骨タイル張り 2 階建て（一部 3 階建て）のビルは、名古屋の陶磁器業界の力を内外に示す役割を果たした。

（「景観重要建造物に関する現況調査報告書」などより）



(2) 近代住宅地の景観・風致の維持向上

ハイカラ文化を今に伝える、名古屋東部の城山・覚王山、八事・南山界隈の近代住宅地の景観・風致の維持・向上を図ります。

城山・覚王山界隈

- ・城山・覚王山界隈においては、城山八幡宮・日泰寺などをはじめとする寺社、近代建築物などの歴史的資源や、起伏に富んだ住宅地の木立の緑を大切にし、緑豊かで特色ある住宅地としての景観・風致の維持・向上を目指します。
- ・歴史的環境を大切にした参道の賑わい創出や、界隈の魅力を活かした地域の文化活動（音楽祭や茶会等）の取り組みとも連携し、界隈の魅力向上に努めます。



やまのて音楽祭



日泰寺



日泰寺参道



東山給水塔（旧配水塔）



末盛城跡



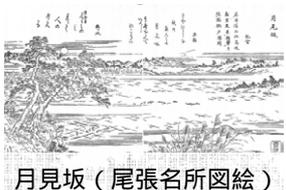
城山八幡宮



旧昭和塾堂



四観音道の道標



月見坂（尾張名所図絵）



揚輝荘の再生・活用

- 近代名古屋の郊外別荘の代表作で、城山・覚王山界隈に立地する「揚輝荘」（平成19年に名古屋市に寄贈）は、聴松閣などが存する南園、伴華楼・白雲橋などが存する北園について、段階的に修復・整備を進めながら、歴史と文化が感じられる質の高い市民利用施設として、NPOなどと共にまちづくり・文化活動の拠点として活用していきます。



聴松閣



白雲橋



三賞亭 外観



伴華楼 外観

歴史的資源の豆知識 【揚輝荘】

揚輝荘は、松坂屋の初代社長伊藤次郎左衛門祐民によって構築された別邸である。完成時（昭和14年頃）には、約一万坪の敷地の中に三十数棟の各種建造物が建ち並び、池泉回遊式庭園とともに、覚王山の高台に威容を誇った。かつては、各界要人や文化人が往来する迎賓館、社交場として華やぎ、またアジアの留学生が寄宿して国際的なコミュニティを形成していた。

その後、世の移ろいを経て残された近代建築は文化遺産として、また、庭園緑地は都会のオアシスとして、今や市民共有の貴重な財産となっている。



揚輝荘（昭和14年頃）
揚輝荘主人遺構、竹中工務店発行



揚輝荘（昭和14年ごろの配置図）



揚輝荘（現状図）

八事・南山界限

- ・八事・南山界限は、国の重要文化財に指定されている興正寺五重塔を始めとする様々な歴史的資源や、名古屋初の土地区画整理組合事業により形成された、戦前の質の高い郊外住宅地の歴史・環境を継承し、緑豊かでゆとりある住宅地としての景観・風致の維持・向上を目指します。
- ・起伏に富んだ東部丘陵の緑を活かしながら良好な景観・風致を形成してきたキャンパス街（大学街）周辺の、歴史・文教環境を継承します。



興正寺公園周辺の緑地



(3) 近代建築の保存・活用

市内各所に残る近代建築について、近代都市化の息吹を伝える歴史資産として捉え、保存・活用を図ります。

近代建築の保存・活用

- ・都心部の目抜き通り（広小路通・大津通など）に時を刻む、近代建築は、近代名古屋の都心文化を象徴・継承する貴重な歴史的資源であることから、景観重要建造物の指定などを通して、保存・活用に努めます。
- ・都市再生特別地区などの都市計画制度、建築基準法による総合設計制度などを利用して、近代建築の保存・活用を誘導し、都心の文化・賑わいの創出に活かします。



旧名古屋銀行本店(広小路通沿道)



三井住友銀行(広小路通沿道)



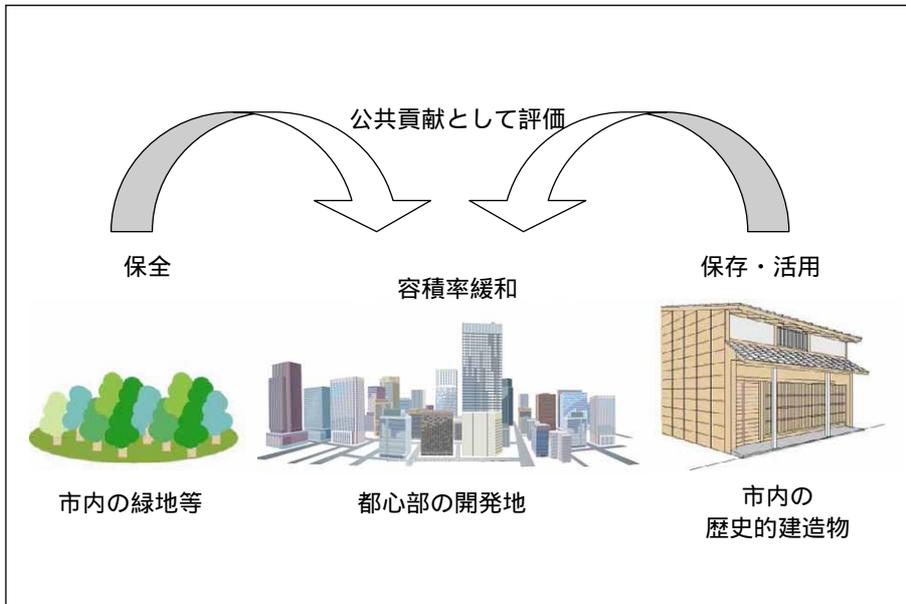
愛知県本庁舎(大津通沿道)



大津通沿いの近代建築



洋館付和風住宅



- ・大正～昭和初期に建てられた質の高い近代和風住宅・洋風住宅などについては、高い水準にあった当時の建築技術・建築材料やモダニズムの意匠を伝える貴重な文化資源であるとともに、緑豊かな庭と一体となって良好な都市景観をかたちづくってきたことから、景観重要建造物の指定などを通じて、これらの保存・活用に努めます。
- ・旧市域東部の住宅地に数多く残る洋館付和風住宅などレトロな魅力を持つ住宅建築については、地域の景観や生活文化を伝える歴史的資源として保存・活用するなどし、地域のまちづくりに活かします。
- ・新たに建築を行う際には、材料、デザイン、周辺との調和等に配慮しながら、将来的な歴史的資源となるように努めるとともに、そのような取り組みを誘導・支援します。

市所有の近代建築の保存・活用

- ・昭和初期の帝冠様式を代表する近代建築である市役所本庁舎や、公会堂など市所有の近代建築については、近代工法を取り入れた先駆的な建造物として建設された貴重な建造物としての価値を踏まえながら、保存・活用に取り組みます。
- ・市役所本庁舎については、イベントなどの機会における市民への公開や、テレビドラマや映画の撮影などを通して、市民に親しまれる市庁舎としての活用を推進します。
- ・近代名古屋において、特色ある意匠により設計された橋梁等の建造物については、それぞれの独特の意匠の継承・修景を図るなど、歴史が感じられる風景の維持・形成に努めます。
- ・市所有の建築物・建造物の整備や改修にあたっては、地域の町並み・歴史的な背景をふまえた設計に取り組むなどし、歴史環境に配慮した公共施設整備を推進します。
- ・名古屋市が管理する市政資料館（旧名古屋控訴院・地方裁判所・区裁判所庁舎）については、国の重要文化財として保存・公開しつつ、施設の貸出などさらに市民に親しまれる施設としての活用を推進します。



市役所本庁舎



市役所本庁舎内部

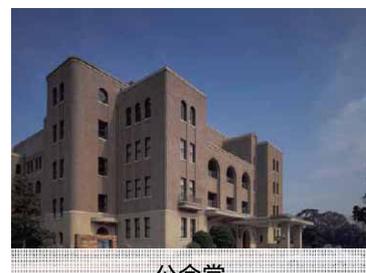


市政資料館

(旧名古屋控訴院・地方裁判所・区裁判所庁舎)



大津橋の欄干



公会堂

歴史的資源の豆知識 【市役所本庁舎】

大正 10 年（1921）に名古屋市は隣接する 16 か町村を編入し、大都市としての様相を帯びてきた。名古屋市庁舎としては、明治 42 年（1909）以来の木造庁舎をそのまま使用してきたが、昭和 3 年（1928）11 月の市会において、現在地に建築されることとなり、昭和 8 年（1933）9 月に完成した。建築様式は、昭和時代初期のナショナリズムの台頭を背景に、近代主義建築に対抗して生まれた建築様式である。鉄骨鉄筋コンクリート造りの現代建築に、和風の瓦屋根を載せるのを最大の特徴とする「帝冠様式」といわれるものである。

大津通に面する中央に正面玄関があり、中に入ると中央広間、正面に階段がある。正面玄関の床は花崗岩、上り段は大理石、上部床はモザイク大理石張り、壁はヒシヤ石張り。中央広間は、床、壁、階段手摺り、踏み面は大理石張りとなっており、この庁舎の見所のひとつとなっている。

（「愛知県の近代化遺産」などより）



市役所本庁舎

方針3 戦災復興により形成された資産を活かす

大胆な戦災復興計画によって形成されたまちづくり資産を、環境と人にやさしいに都市空間として再生するなど、新たなまちづくりを展開します。

(1) 都心のゆとりある都市基盤を活かしたまちづくり

戦災復興計画により生み出された都心部の広幅員道路等をはじめとする、ゆとりある公共空間を活かした、新たなまちづくりを展開します。

広幅員道路を活かした交通まちづくり

- 江戸期の碁盤割を引き継ぎながら整備された広小路通などの都心部の広幅員道路においては、社会実験を通じた自動車交通の制御や、緑陰空間の創出などゆとりとうるおいが感じられる道路構造への転換を目指した検討を進め、環境と人にやさしい交通まちづくりを推進します。
- 広幅員道路の整備とあわせて形成された、名古屋特有の都市資産である地下街については、サンクンガーデンやアトリウム等の広場空間の充実やバリアフリー化をすすめ、地上の沿道建物や広幅員道路との連続性を高めるなどし、歩行者の立体的な回遊性を向上させます。



なごやカーフリーデー

歴史的資源の豆知識 【広小路通】

名古屋の城下町が建設されて半世紀が経過した 1660 (万治 3) 年 1 月、世にいう万治の大火が発生し、碁盤割城下町のほぼ東半分を焼失してしまった。そこで尾張藩は、火の延焼が止まった、上町の南端、堀切筋の長者町から久屋町までの 7 街区に面する道路を拡幅し、火除け地の役割を持たせた。これが広小路で、道幅は約 15 間とされる。広小路は城下町を南北に貫通する本町通と交差しており、人々が集まりやすい場所であったため、人々が集まる賑わいの場に、いわば「都市広場」になっていった。

明治維新後、文明開化の象徴である名古屋郵便局と名古屋電線局が広小路本町の角に造られ、また広小路の東端に愛知県庁舎、名古屋警察所、名古屋区役所などが建設された。かくして、広小路の役割は「民の広場」から「官の広場」へと変化した。その後東海道線の駅が、城下町西郊外の笹島に、名古屋停車場が建設されることになり、広小路が西に延長されることになる。その後、国有鉄道中央線が計画されたことから、城下町東郊外に鉄道駅ができることになり、広小路が東進することとなった。広小路は、名古屋の都心を貫通する幹線道路の位置づけを与えられることになったため、笹島から県庁前まで市内電車が開通した。

名古屋随一となった広小路では、パレードなどが行われ、名古屋のハレの場としての性格を与えられた。大正期から徐々に、バスやタクシー、さらに自動車の利用が多くなり、自動車時代が到来した。昭和 12 年、笹島の名古屋駅が北方に新築移転したため、これに合わせ新しい幹線道路として桜通が開通した。戦後、戦災復興計画により、幅員 15 間～10 間であった広小路は、幅員 30m と決められた。また、戦災復興計画において、戦前からの宿願であった、高速度鉄道の建設が進められることになり、広小路に並行して走る錦通の地下を利用して、昭和 32 年、名古屋・栄町間 2.4 km において、名古屋で最初の地下鉄が開業した。同時に名古屋駅前、伏見町、栄町に地下街が建設された。

一方、市電は徐々に廃止され始め、昭和 49 年 (1974) までに全ての市電が廃止された。さらに、広小路の屋台は不衛生だとして、昭和 48 年 (1973) 3 月 31 日の夜を限りに、姿を消した。市電や屋台の撤去により、広小路は幹線道路としての役割を強化し、賑わいの場としての広小路の性格を大きく変えることになった。

(「社団法人日本都市計画学会中部支部創設 20 周年記念誌」などより)

久屋大通の再生

- ・久屋大通については、大胆な都市計画により生み出された都心の大規模公共空間の機能・構造を見直すなど、都心の魅力空間として日常的な賑わいが創出されるよう、再生に向けた検討をすすめます。
- ・久屋大通沿道については、都市景観形成地区による誘導等により、スケールの大きな空間と豊かな緑にふさわしい品位ある洗練されたデザインの街並み形成を図ります。また、都心の商業地としての賑わい創出に努めます。

テレビ塔の活用

- ・久屋大通内にあるテレビ塔については、日本初の集約電波鉄塔として建設され、広く情報発信の役割を担った歴史的価値をふまえた保存・修復を図りながら、都心の魅力発信拠点・ランドマークとして活用を図っていきます。



歴史的資源の豆知識 【100m道路と名古屋テレビ塔】

名古屋は戦後復興計画をどこよりも早く昭和20年(1945)12月、名古屋市の「中京再建の構想案」の発表で立ちあげた。その計画の目玉に100m幅をもった2つの基幹道路計画が含まれていた。この2つの100m道路は名古屋市街の中心でクロスし、火災等災害を防止し避難所になる目的をもつもの。その道路の一つが久屋大通、もう一つが若宮大通である。昭和38年(1963)、100m道路としての久屋大通は18年間を要して完成したが、この事業は戦災復興という全国的課題とともに関係市民の全面的な協力によって成し得た画期的な事業である。

このように誕生した久屋大通・若宮大通は、その後、周辺地域の都市開発とともに整備が進み、とりわけ久屋大通については、都市公園として名古屋を代表する都心のオアシスとして成長した。

また、この地域の総力を結集した大事業に名古屋市街地を走る100m道路整備計画にあわせた名古屋テレビ塔建設がある。これは日本でテレビジョン放送が開始されることを機会として全国に先駆けた東洋の「エッフェル塔」を建設しようとするものであった。愛知県、名古屋市、郵政省(現在の総務省)、NHK、CBC、中京財界など、まさに官民一体となった地域の総力を結集した大プロジェクトである。

工事期間は9か月間という技術が進んだ現在でも考えられないほどの早さで、日本初めての「集約電波鉄塔」が誕生した。まだ、街には戦災の足跡が残る昭和29年(1954)6月のことである。直ちに全国的に知れ渡りテレビ電波の送信鉄塔とともに観光タワーとしてもたちまち爆発的な人気となった。

テレビ放送は日本の戦後復興政策としての役割を担い、白黒放送からカラー放送へと、皇太子殿下ご成婚から東京オリンピック放送など着実に茶の間の主役として急速な普及を遂げ、日本の文化の向上に大きく貢献することとなった。平成23年(2011)7月にはすべての地上テレビジョン放送がデジタル放送に移行することとなり、これまでの役割を終えることとなった。

(「社団法人日本都市計画学会中部支部創設20周年記念誌」などより)

(2) 東山の森の再生

東山の森の一部でもある平和公園は、戦災復興土地区画整理事業の一環として、市内の寺院墓地の移転集約先として整備されたものです。こうした戦災復興計画を支えた平和公園及び東山公園において、東山の森の再生をすすめます。

なごや東山の森づくりの推進

- ・都市に残された身近な森を保全し、手入れが途絶えて荒廃した森を健全な里山に再生します。
- ・散策路など安心して自然とふれあえる場所をつくり、自然観察会など誰もが気軽に自然に親しめる機会を増やします。
- ・体験・体感を通じて自然を楽しく学べる環境学習を推進します。

東山動植物園の再生

- ・開園当時の建造物や大きく育った樹木、都会の中に残る豊かな自然などの今ある魅力を大切にしながら、もっと身近にもっと楽しく自然とふれあうことができる「歴史と文化に育まれた人と自然のミュージアム」になることを目指します。
- ・「東洋一の水晶宮」と称された温室や正門をはじめとする歴史文化的施設や景観を大切に空間づくりをすすめます。



平和公園



東山植物園の温室（重要文化財）

歴史的資源の豆知識 【平和公園】

戦後行われた復興土地区画整理事業における大きな特色の一つとして、墓地の集中移転がある。都市の中心部の墓地は、あらゆる面で都市計画の障害になっており、環境的にも、美観上も好ましくない状態であった。

そこで、本市では、市街地の環境整備を図るため、本事業のなかで墓地の集中移転を計画し、昭和22年2月東山公園に隣接する丘陵地帯115.7haをあらたに施行区域に編入し、事業地区内の寺院279カ寺の移転を計画した。

墓碑の移転については、当初、宗教上の因習や感情に大きく支配され、また地区内の関係寺院がほとんど罹災して、寺院自体の復興に忙殺されており、極めて困難な状態にあった。

昭和21年6月17日、関係する仏教各派から16人の代表者が選出され、名古屋市復興墓地整理委員会が結成された。同委員会は、墓苑の計画、各宗派の意見の調整などに尽力したが、墓地の移転についても各委員がそれぞれ同宗派の寺院を担当して説得にあたり、これら委員の説得によって同意を得た例も多い。

現在、平和公園内の墓地は、各寺院で管理しており、また、平和公園内の諸施設を充実させるため、墓地の管理者等で組織する名古屋平和公園会が置かれている。なお、名古屋市戦災復興墓地整理委員会は、ほぼ墓地移転が完了した昭和38年11月、発展的に解散し、業務資産、及び権利を新しく、発足した名古屋市平和公園会に引き継いだ。（「戦災復興誌」などより）

戦略 身近な歴史に親しむ界隈づくり

第2章で述べたように、名古屋においては、身近な地域においても異なる時代の多様な歴史的資源が残っています。また、人々に気づかれずに眠っているものも数多くあると思われます。さらに、一つの地域でも見方によって、それぞれの地域の特色が違って見え新たな魅力に気づく場合もあります。

それぞれの地域に残る多様な歴史・文化資源を活かした、身近で多様な界隈の魅力向上を図り、名古屋のあちこちで市民が親しみ・楽しむことができる歴史環境づくりを進めます。

方針1 身近な歴史的界隈の趣を活かす

方針2 防災まちづくりとの連携



身近な歴史に親しむ界隈づくりの展開イメージ

方針 1 身近な歴史的界隈の趣を活かす

身近な歴史的建造物や伝承などは、地域のまちの魅力の発掘・向上をするために大きな資産です。これらの身近な資産を活かすとともに、地域住民が主体となるまちづくりを促進します。

歴史的界隈...「まちの成り立ちを語る上で欠かせない祭礼・産業などの生活文化、地形・町割などの周辺環境を背景に、歴史的建造物がまとまりをもって存在する区域」

(平成 22 年 6 月 9 日 第 3 1 回名古屋市広告・景観審議会より)

(1) 歴史的界隈の発見・情報発信

市内には、歴史的界隈の成り立ちやその後の経緯、構成要素はそれぞれ特有なものがあると共に、様々な機能・いくつかの時代背景が重なりあい、多様な歴史的界隈が存在するといえます。

市全域について「まちの成り立ち・経緯」「歴史的建造物などの保存・活用」「祭礼・産業などの生活文化・歴史的事象」の状況などの概況を整理し、地域主体によるまちづくりのきっかけとして活用できるよう情報発信を行います。

歴史的界隈に関する基礎調査

- ・社寺、町家、近代建築の年代、構造、用途、位置づけなど、歴史的建造物の現状について、現地調査を行いながら、把握します。
- ・それぞれの歴史的建造物の分布状況、歴史的経緯、祭り・伝統産業などの営みについて、現地調査を行いながら、歴史的界隈の特色等を把握します。
- ・地域の成り立ち、土地利用の用途などの様々な視点から、多様で一律に対応していくことが困難である歴史的界隈の状況について、できる限り分かりやすい整理を行います。

歴史的界隈の情報共有

- ・調査した歴史的界隈の概況について、市民に広く周知し、身近なまちの歴史的建造物や歴史的経緯、祭礼などの営みを再認識してもらうとともに、市民からの新たな情報提供をうけ、歴史的界隈の情報を充実させていきます。
- ・歴史的界隈の出来る限り多くの区域において、市民が中心となった歴史的資源を活かした地域のまちづくり活動に向け、機運の醸成を図ります。

歴史的資源の豆知識 【歴史的界隈について】

まちは広域多岐にわたるさまざまな要素から成り立っており、これらの要素が組み合わさって総合的な印象がひとつにまとまった「景観上のかたまり」を、名古屋市都市景観基本計画（昭和 64 年策定）では「景観自立地区」と呼んでいます。この景観自立地区の考え方を元に、まちの成り立ちなどを考慮に入れたものを「歴史的界隈」として広告景観審議会で位置付けました。「歴史的界隈」の中には歴史的建造物だけでなく、多様な祭礼・産業などの生活文化、地形・町割りなど周辺環境、まちの歴史、時代背景などがあると考えており、それらは、地域が持っている歴史的資源と言えます。今後、市民が中心となってこのような歴史的資源を有効に活用し、歴史的界隈の特性を活かしたまちづくりが必要と考えております。（名古屋市広告・景観審議会）

(2) 界隈の魅力を活かした地域まちづくりの推進

身近な歴史的界隈の魅力を、地域と協働しながら磨いていく活動を促進していきます。歴史的界隈の魅力を活かした地域まちづくりは、様々な時代に積み重ねられた歴史的資源を、地域の力により、改めて地域の魅力として浮かび上がらせるまちづくりともいえます。

界隈の魅力を活かした地域まちづくりの推進

- ・ 歴史的界隈のまち歩き・歴史的資源等のマップづくりなどを通じて、地域の魅力の再発見・情報発信を促進します。
- ・ 歴史的界隈の魅力を特色づける歴史的建造物あるいは樹木等の保存・活用を促進すると共に、その特色を損なわないよう周辺環境の保全あるいは改善する活動を支援します。
- ・ 歴史的界隈に伝わる伝承、往来した人々にまつわるコトなど、形のないものについても、界隈の魅力として捉え、地域まちづくりの中で活かしていきます。

界隈の魅力を活かした地域まちづくりの主な視点

- ・ 歴史的界隈の魅力は、捉え方により、多様な視点が存在しますが、6つの主な視点を以下に例示します。

視点 武将ゆかりの地や古戦場

視点 名古屋を往来した人々

視点 近代のロマンや風情が伝わる住宅地等

視点 水と緑の歴史的環境

視点 集落や街道の風致

視点 古代の歴史風景

【視点】 武将ゆかりの地や古戦場

名古屋には、三英傑をはじめとする歴史の表舞台で活躍し、それぞれの地域で愛される武将の生誕地やゆかりの地、城跡、古戦場などが数多く残されています。地域の歴史的資源として有効に活用する活動を促進・支援するとともに、共有する歴史的資源を有する周辺市町との連携も促進します。

< 主な歴史的資源 >

名古屋にゆかりのある武将とその足跡

源 頼朝...誓願寺（生誕伝承地：熱田区）

藤原景清（平家）...景清社（熱田区）

織田信秀...末盛城跡（千種区）、古渡城跡（中区）

織田信長...那古野城跡（中区）、信長堀（熱田区）

豊臣秀吉...豊国神社（中村区）

徳川家康...徳川家康幽囚の地（熱田区）

前田利家...荒子城跡（中川区）

加藤清正...妙行寺（中村区）

柴田勝家...下社城跡（名東区） など

桶狭間の戦いとその城跡

桶狭間一帯・桶狭間古戦場公園・大高城跡・鳴海城跡

鷲津砦跡・丸根砦跡・善照寺砦跡



豊国神社



桶狭間古戦場公園

歴史的資源の豆知識 【中村公園、豊国神社・豊臣秀吉】

豊臣秀吉の出生地と伝えられる中村に明治 18 年 8 月遺業を偲んで中村公園をつくった。

園内に有志が発案し、時の県令（県知事）国貞廉平の尽力を得て創祀したのがこの社である。

園内には「豊公誕生之地」碑をはじめ、産湯井戸など伝承的史跡がある。

参道には昭和 4 年につくられた鉄筋コンクリート製の大鳥居があり、柱の直径 2.4m、高さ 24m、笠木の長さ 34.5mあり、大きさの点では日本有数のものである。

加藤清正も秀吉の近所で生まれたと伝えられ、公園東隣の妙行寺には生誕碑がある。

（「名古屋の史跡と文化財（新訂版）（平成 3 年）」などより）

歴史的資源の豆知識 【桶狭間古戦場】

桶狭間合戦は、永禄 3 年（1560）5 月、大軍を率いて尾張入りし桶狭間に休息中の今川義元を、織田信長が奇襲によって打ち亡ぼし、27 歳の信長の名を天下に知らしめた戦いとして名高い。この古戦場や義元最期の地については古来諸説・伝承がある。いずれも正確な資料を欠くため確証を欠くが、現段階では合戦場は、丘陵と狭間の入り組み合った広地域にわたるものと推定されている。

（「名古屋の史跡と文化財（新訂版）（平成 3 年）」などより）

【視点】名古屋を往来した人々

古くから東西要衝の地であった名古屋は、円空・松尾芭蕉など歴史に名を残した多くの人物が往来し、あるいは生まれ育った足跡やゆかりの地が数多くあります。それらの歴史的な資源であるモノ・コトをいかした地域のまちづくり活動を促進・支援します。

<主な歴史的資源>

名古屋を往来した主な人々とそのゆかりの地

日本武尊（伝承）...白鳥古墳（熱田区）

最澄（伝承）...竜泉寺観音（守山区）

円空...荒子観音（中川区）、竜泉寺観音（守山区）

松尾芭蕉...「蕉風発祥の地」の碑（中区）

...千鳥塚（緑区）

...誓願寺（芭蕉堂・芭蕉最古の供養塔）（緑区）

...笠寺観音（松尾芭蕉の句碑）（南区）

...林桐葉宅跡（熱田区）

...風月堂書林跡（中区） など

宮本武蔵...笠寺観音（宮本武蔵の供養塔）（南区）

葛飾北斎...西本願寺名古屋別院（大ダルマ即書会会場）（中区）

など



白鳥古墳



千鳥塚



宮本武蔵の碑

歴史的資源の豆知識【松尾芭蕉・葛飾北斎】

松尾芭蕉が初めて名古屋を訪れたのは、貞享元年（1684）初冬、41歳のときである。それまで江戸で築きあげた俳諧宗匠としての人生に飽きたらず、世俗的な生活を脱して文芸に専心することを模索していた頃だった。いわゆる『野ざらし紀行』の旅の帰途、名古屋の裕福な商人たち、すなわち医師の山本荷兮^{かへい}、呉服商岡田野水、材木商加藤重五らに招かれて連句の会を催した。これを収めて刊行されたのが『冬の日』で、芭蕉が目指していた反俗的な新境地を示すものとして、芭蕉の代表作を集めた「俳諧七部集」の第一集に位置づけられている。名古屋を「蕉風発祥の地」とするのはこのため、昭和45年にはこれを記念する碑がテレビ塔下に建てられた。貞享元年以降、芭蕉は名古屋城下や熱田、鳴海に度々立ち寄り、当地方の俳諧に大きな影響を及ぼした。

葛飾北斎は、文化14年（1817）の春から名古屋城下に滞在し、名古屋の本屋永楽屋などから刊行中の絵手本集『北斎漫画』の下絵制作にいそしんでいた。その秋、この北斎による大ダルマ即書会のニュースが城下をかけめぐった。10月5日、折しも達磨忌の当日は、朝早くから貴賤群衆し、会場である西掛所（本願寺名古屋別院）付近は大混雑した。巳の上刻（午前9時頃）から始まったが、百二十畳もある紙に藁を束ねた筆で書くとあって完成したのは夕方のこと。翌日はこれを高く掲げて見物人に披露したが、出来映えは実に壮観、まれに見る快挙とほめられた。（「開府400年記念特別展 名古屋400年のあゆみ」（名古屋市博物館）などより）

【視点】近代のロマンや風情が伝わる住宅地等

市内各所に残る日本家屋の技術を継承しつつ、西洋文化を巧みに取り入れた、近代和風・和洋折衷住宅や、戦前から戦後にかけてのレトロな雰囲気が残る商店街・町並みなどを活かし、大正～昭和のロマンや風情・趣を伝え、魅力の継承を図ります。

<主な歴史的資源>

市内各所に残る近代和風・和洋折衷住宅

- ・近代和風住宅とは、伝統的な意匠や様式も踏まえつつ近世の建築規制の束縛から解放され、自由で多様なデザインを組み入れたものです。
- ・近代和洋折衷住宅とは、和風建築と洋風建築を意図的に折衷した住宅です。
- ・市内では昭和区・瑞穂区などに多く残っています。

大正～昭和の趣を残す商店街や路地などのレトロ空間



近代和洋折衷住宅



旧松岡旅館

【視点】水と緑の歴史的環境

水（河川・用水・ため池）や緑（里山・鎮守の森）などの歴史的環境を活かしたまちづくりを、保存樹や特別緑地保全地区等の制度も利用しつつ、促進・支援します。

<主な歴史的資源>

水

山崎川など歴史のある河川

庄内用水などの用水

市内に残されているため池 など



庄内用水

緑

熱田神宮のクスノキを始め歴史的・文化的価値を有する名木や緑地

東部丘陵地に残る斜面緑地・里山 など



熱田神宮のクスノキ

【視点】集落や街道の風致

・身近な地域での歴史的経緯・地域の成り立ちや生活文化を伝える集落の風致とともに、集落を結ぶ古の人々の交流の息吹を感じる街道の風致を活かしたまちづくりを支援します。

<主な歴史的資源>

歴史的集落・宿場

戸田、下之一色、万場、岩塚、
中小田井、星崎 など

街道跡

百曲街道、稻生街道、四観音道、塩付街道、
郡道、中馬街道 など



【視点】古代の歴史風景

・古墳や遺跡など古代の風景や人々の営み・風景に思いをはせることができる地域を保全し、現代の生活の中でうらおいをあたえるよう努めます。

<主な歴史的資源>

古墳

断夫山古墳（東海地方最大の古墳）

白鳥古墳、
志段味古墳群 など

遺跡

見晴台遺跡、大曲輪遺跡、西志賀遺跡 など

古窯群

東山古窯群 など



・以上、6つの主な視点を例示として揚げましたが、「棒の手」など無形の文化財が分布する地域を捉える視点、伝統産業等の集積を捉える視点、あるいは「震災・戦災・水害」など名古屋が乗り越えてきた試練の爪痕を捉える視点など、多様な視点が考えられ、地域と共に、界隈の魅力とする、あるいは地域からのメッセージとするまちづくりを支援していきます。

方針 2 防災まちづくりとの連携

歴史的環境を残す市街地等において、地域住民などの活動を活かしつつ防災まちづくりと連携した取り組みを促進します。

(1) 歴史的環境を活かした安心・安全なまちづくりの推進

- ・歴史的環境を活かしつつ、避難路・空地・消防水利等の確保、地域の防犯・防災活動の強化、歴史的建造物の防災性能の強化などを通じて安心・安全な、地域のまちづくりを推進していきます。

まちの魅力と課題の共有

- ・狭い路地裏や古い町並みには包み込まれるような安心感や生活感など歴史を積み重ねてつくられた魅力的な空間があります。しかし、防災面では防火上の区画割りができいていないため、火災が延焼しやすい問題や地震時には狭あい道路が塞がる可能性が高いなどの課題があります。地域の人々がその魅力を認識するとともに、そのうえで防災上の課題の共有を図ります。

地域防災力の強化

- ・地域活動や市民団体が鎮守の森などの歴史的資源を貴重なオープンスペースとして活用するなど、地域の歴史的風合いを損なわずに地域防災力を強化するまちづくりに向け、課題を共有し解決方法を考える活動を支援します。

歴史的建造物の防災性能の強化

- ・歴史的建造物の多くは防災性に問題を抱えているケースがありますが、歴史的建造物の雰囲気を壊さないような防火対策・耐震対策などの防災性能の強化の方策について、技術的な支援を推進します。また、水害のおそれのある歴史的界隈では、先人の知恵を活かした家づくり・まちづくりを促進していきます。

戦略 地域力で歴史的資源を「まもり・いかし・つなぐ」仕組みづくり

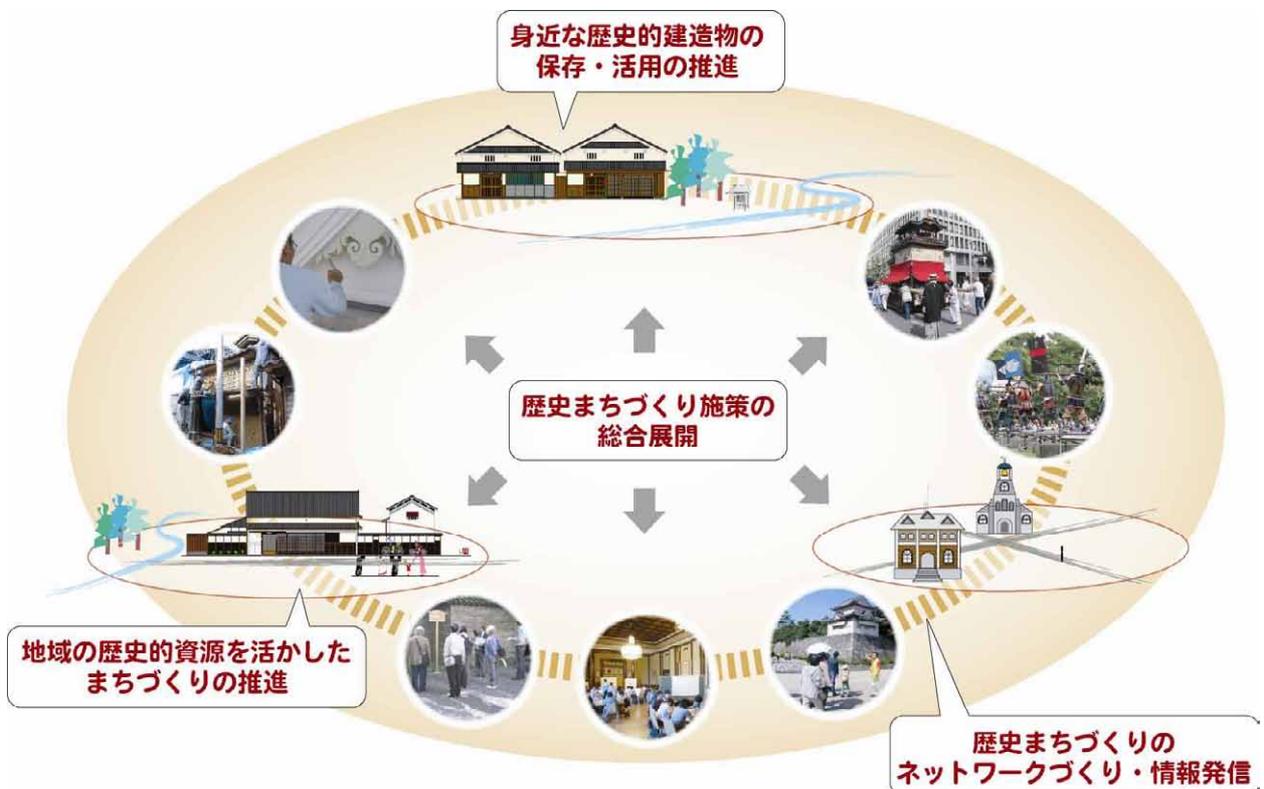
主体的で多様な市民活動と環境、文化、観光など分野横断的な行政の取り組みとの協働により、地域力で歴史的資源を「まもり・いかし・つなぐ」仕組みをつくり、地域の人が地域の持つ歴史の積み重ねや地域の「らしさ」を感じ、語りたくなるまちづくりを促進します。

方針1 身近な歴史的建造物の保存・活用の推進

方針2 地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの推進

方針3 歴史まちづくりのネットワークづくり・情報発信

方針4 歴史まちづくり施策の総合展開



地域力の展開イメージ

方針1 身近な歴史的建造物の保存・活用の推進

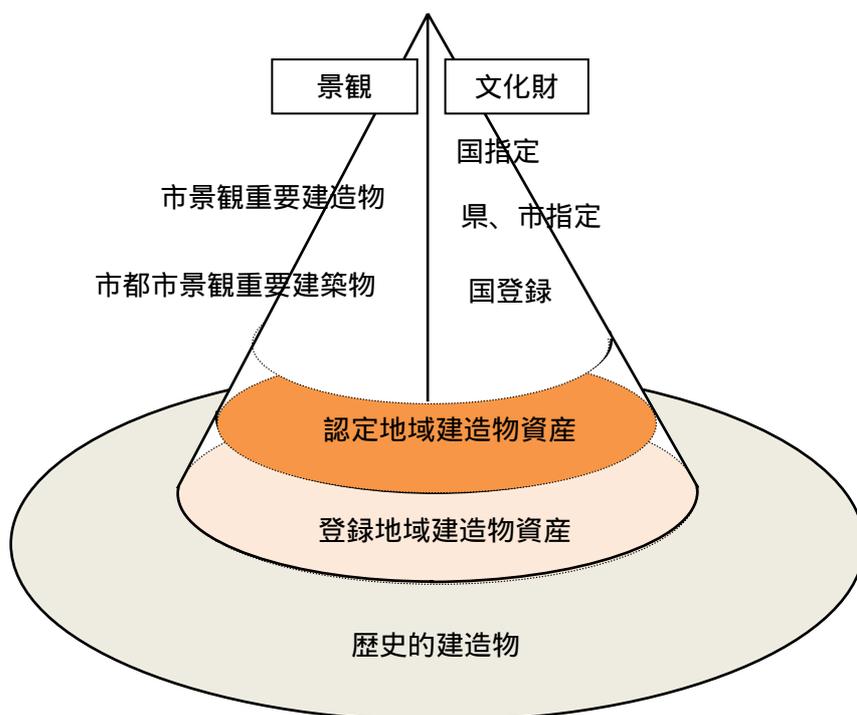
景観に深みと個性をもたらし、地域を特徴づける身近にある歴史的建造物について、保存・活用に向けた取り組みを支援し、地域で愛されてきた建造物を「壊さず使う」という風土を醸成していきます。

(1) 総合窓口

- ・身近な歴史的建造物の保存・活用に関する総合窓口を設置し、歴史的建造物の滅失に関する危機情報をできる限り早い段階で入手し、早急に現況を把握し、必要に応じた対応を実施します。
- ・歴史的建造物の保存・活用の相談を真摯に受け、必要に応じて支援策を講じ、適切な部署や関係機関を紹介するなどの対応を行います。
- ・身近な歴史的建造物に関する情報を収集し、一元的な管理を行います。

(2) 登録・認定制度の実施

- ・条例に基づいて、地域に愛される景観的・文化的価値を有する築50年程度以上の建造物について、所有者の了解を得ながら「登録地域建造物資産」として登録を行い、保存・活用に向けた意識醸成を図っていきます。
- ・「登録地域建造物資産」などのうちから、一定の水準以上のものについては、広告・景観審議会に諮り「認定地域建造物資産」として認定を行い、現状変更の際には届出をうけるなど、保存・活用を推進していきます。



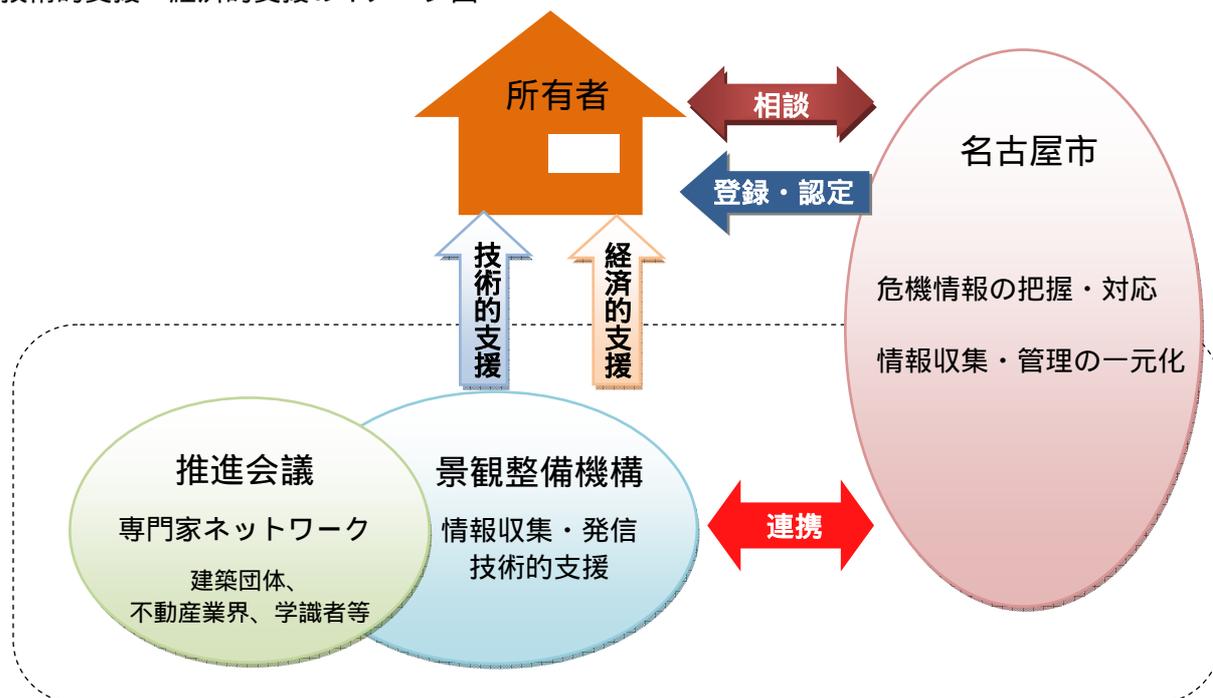
(3) 支援体制の構築

- ・歴史的建造物に対する支援については、景観整備機構などと協働しながら、登録地域建造物資産、認定地域建造物資産、景観重要建造物、指定文化財など段階に応じた適切な支援を行います。また、従来の枠組みでは支援がしにくいコンバージョン（用途転換）などの取り組みについても支援できるよう体制を構築していきます。
- ・景観整備機構を中心にしながら、専門家のネットワークを構築し、技術的支援が可能となる体制の構築を進めていきます。
- ・登録地域建造物資産については、専門家などの相談派遣を行うなど、技術的支援を中心に保存・活用を促進します。
- ・認定地域建造物資産については、技術的支援に加え、経済的支援を一定程度行い、保存・活用を更に推進します。
- ・経済的支援の財源として、基金を設置するなど、市民からの寄付を受けながら、市民と行政の協働により歴史的建造物を保存・活用を支援する仕組みづくりを進めます。
- ・重要な歴史的建造物の保存・活用に向けては、都市再生特別地区などの都市計画制度を積極的に活用していきます。



住民主体による募金等で再生した中舩竹田家

技術的支援・経済的支援のイメージ図



方針2 地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの推進

地域における歴史的資源の発掘や、地域主体の歴史まちづくりへの取り組みを通じて、歴史的資源をいかしたまちづくりを推進し、魅力向上を図っていきます。

(1) 歴史的資源の発掘

- ・それぞれの地域における、郷土の歴史文化の学習会やイベント、まち歩きなどによる歴史的資源を発掘する活動を支援していきます。
- ・地域主体による歴史的資源のマップづくりなど、地域の資産の再認識と情報発信する活動を支援していきます。
- ・旧城下の碁盤割地区の通り名など、歴史的経緯や謂れのある「旧町名」を活かす仕組みづくりを検討していきます。



熱田区まちづくり協議会による
熱田ぐるりんマップの作成

(2) 地域主体の歴史まちづくりの推進

- ・それぞれの地域で行われている、歴史的建造物を活用したイベントの開催、伝統祭事の復活等、歴史的資源を活かしたまちづくりへの取り組みを支援します。
- ・地域による案内板の設置など、地域の歴史的資源を紹介する活動などを支援していきます。



まち歩きの発表会(那古野)

(3) 持続的なまちづくりの仕組みづくり

- ・持続的なまちづくりを進めていくための仕組みとして、地区計画・建築協定などの既存制度なども活用していきます。
- ・地域主体のまちづくりの立ち上げを促進し、持続していくために、まちづくりの活動団体の支援を行います。
- ・地域主体による歴史的資源を活かしたまちづくりを推進していくために、財源のあり方・体制のあり方・人材育成のあり方など、その仕組みについて諸外国等の先進事例の研究をしながら検討を進めていきます。



堀川まつり・大まきわら船の復活



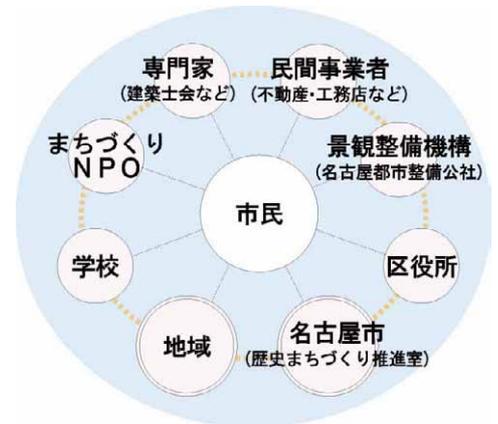
緑区ルネッサンスフォーラムによる
高札場の復元(鳴海)

方針3 歴史まちづくりのネットワークづくり・情報発信

歴史まちづくりのベースとなる地域の歴史的資源等の情報の共有・活用を図るとともに、多様な主体をつなぐネットワークの形成・交流を促進します。

(1) 多様な主体をつなぐプラットフォームづくり

- ・地域やまちづくりNPO、学識者、専門家団体、民間事業者など、歴史まちづくりに関わる多様な主体の交流や連携を強化します。
- ・歴史的建造物の保存・活用に向け、景観整備機構を中心に建築団体・不動産業界・学識経験者等から構成される「歴史的建造物保存活用推進会議」を多様な主体をつなぐプラットフォームの中心として、活かしていきます。
- ・また、各地域における「まちづくり協議会」などのまちづくり団体との交流・連携も促進していきます。



歴史まちづくりのネットワーク
(イメージ)

(2) 歴史まちづくりの人材育成

- ・景観整備機構による「名古屋歴史的建造物保存活用推進員(なごや歴まちびと)養成講座」を開催するなど、歴史的建造物の保存・活用の担い手となる専門的知識を持った人材育成を推進します。また、育成された人材が、多くの場面で活躍できるよう、環境を整えていきます。専門家の育成に加え、一般市民にも理解しやすい講座の開催など、市民意識の醸成に努めます。
- ・地域のまちづくりの中心となる人材を養成していくため、専門家の派遣、養成講座等の開催を進めます。



名古屋都市センターの
まちづくりびと養成講座風景

(3) 情報発信・交流促進

- ・地域住民、市民活動団体、行政など多様な主体により収集・整理された歴史的資源の情報を取りまとめ、歴史まちづくり情報のデータベースを構築していきます。
- ・地域の歴史的魅力を紹介するパンフレットの作成やホームページづくりなど、歴史まちづくりに関する情報発信に取り組みます。
- ・「歩こう！文化のみち」を始め多様な主体が参加するイベントを開催するなど、歴史まちづくりに取り組む人と人との交流を促進します。



ホームページによる情報発信
(なごや歴まちネット)



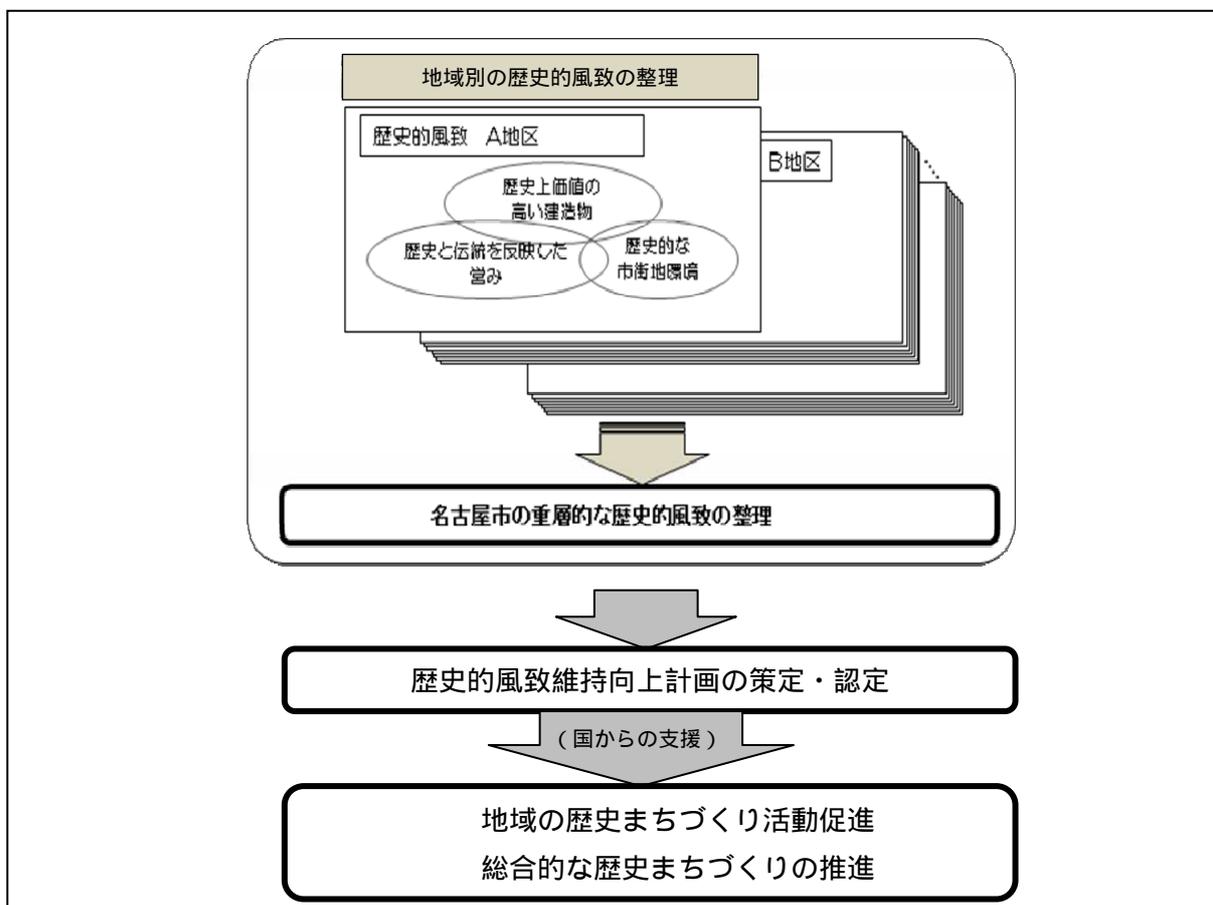
歩こう！文化のみち

方針4 歴史まちづくり施策の総合展開

地域力を活かした歴史まちづくりを持続的に進めるため、これを支える行政の支援制度や施策の総合的な展開を推進します。

(1) 歴史まちづくり法に基づく歴史的風致維持向上計画の策定

- ・名古屋市全域の各所について「地域におけるその固有の歴史及び伝統を反映した人々の活動とその活動が行われる歴史上価値の高い建造物及びその周辺の市街地とが一体となって形成してきた良好な市街地の環境」と定義される「歴史的風致」を整理した上で、歴史まちづくり法に基づく、歴史的風致維持向上計画を策定し、戦災都市かつ大都市として初めてとなる、国の認定計画となることを目指します。
- ・計画策定の過程の中で得られた、市内各所の「歴史的風致」を地域のまちづくり活動へ還元し、活かしていきます。また、認定されることにより、国の支援を受けながら、総合的な歴史まちづくりをより一層推進するとともに、市の歴史まちづくりへの姿勢とこれまで脚光を浴びなかった名所を市の内外にPRします。



(3) 周辺市町村・広域連携の推進

- ・桶狭間の戦いや小牧・長久手の戦いなどの古戦場、城下町誕生のもととなる清須、この地方ゆかりの三英傑をはじめとした武将ゆかりの地、尾張藩であった地域など、共通のテーマをもった周辺市町村と連携して歴史まちづくりをすすめます。



『尾張美濃参河飛驒信濃五ヶ国絵図』愛知県図書館所蔵
周辺市町村連携のイメージ図

- ・山車などの祭、木材・木製品・大工技術など「木の文化」、陶磁器産業など「土の文化」、繊維・織物・染織など「糸の文化」及び木曾川水系の電源開発に始まる「鉄の文化」など、産業・文化を共有する地域を始め、伊勢湾を含む木曾川流域圏、古代から近代まで、東西の要衝の地として関連の深かった地域との連携など、歴史を共通のテーマにもった広域的な地域連携を促進し、情報発信に努めます。
- ・中部地方のさまざまな歴史的資源や産業遺産などの豊富な魅力を活かして、テーマ性やストーリー性のある具体的な取り組みを進めるなど、広域観光圏全体としてのブランド力を高め、広がりのある広域観光を推進します。



NASA WorldWind1.4 NLTLandsat7 (Visible Color) を加工
広域連携のイメージ図

歴史的資源の豆知識 【木・糸・土・鉄（機械）の産業技術の系譜】

1 「木」

江戸時代、名古屋は木曾や飛騨地方がはぐくんだ良質な木材の集散地でした。その産業の歴史は今日もお受け継がれています。名古屋の「木」の産業技術は、豊富な良材とそれに携わる職人達、そして江戸時代からつちかわれた経営資源などを活かし、時計・鉄道車両・合板・楽器（バイオリン等）・航空機などの近代産業に発展したほか、仏壇・仏具・桐箆笥・木桶・扇子などの伝統産業として今日に至っています。また、初期の機械や車両には木製品が使われまし、合板は名古屋名物のパチンコ台にも応用されました。

2 「糸」

江戸時代、尾張・知多・三河は綿織物の一大産地でした。この歴史は明治時代に入ってから受け継がれ、その後、愛知県は綿・毛・合織の三拍子そろった「繊維王国」と呼ばれるに至りました。

また、「繊維王国」として発展した当地域における、さらに大きな特色として、「糸（繊維機械）」の産業技術を礎に、自動車産業が発展していった点があげられます。日本の発明王・豊田佐吉は、世界最初の完全な自動織機を完成させ、繊維産業の発展に大きく貢献しました。その後佐吉が発明した自動織機の特許権を譲渡した代金を長男・喜一郎に自動車開発資金の一部として与えました。

3 「土」

焼き物の産地で、平安時代末期から室町時代にかけて隆盛し、現在まで至る代表的な古い窯のことを六古窯（瀬戸・常滑・越前・丹波・備前・信楽）と呼んでいます。このうち、瀬戸と常滑はともに尾張にあり、特に瀬戸については“瀬戸物”という名称が、古くから陶磁器の代名詞となっているほどです。

全国には数多くの陶磁器産地がありますが、名古屋地域は、伝統的な陶磁器産業が近代的な陶磁器産業へと飛躍した、という点が特筆されます。その影には、この地域が育てた豊富な職人達と良質な原料を名古屋に持ち込み、それらを近代陶磁器産業として開花させた森村市左衛門の大きな努力がありました。

1904年には日本で初めて西欧の近代的な生産設備を備えた陶磁器量産工場を、現在の名古屋市西区則武新町に建設。陶磁器を日本の一大輸出産業として育て上げたのです。

4 「鉄（機械）」

1889年名古屋市制が施行され、市内に初めて電燈をともした名古屋電燈（現・中部電力）は、やがて水量豊かな木曾川水系の電源開発に着手しました。

当時の社長で、福沢諭吉の娘婿だった福沢桃介は、日本各地の電気事業を取り仕切った“電力王”と呼ばれ、新会社を起こす名人でもありました。

彼は、水力発電の余剰電力を活用した電気炉による特殊鋼（現・大同特殊鋼）の生産をはじめたほか、1937年に矢作製鉄（現・ヤハギ）を設立しました。

和時計やからくり人形が守り育てたモノづくりの蓄積は、明治時代になると、鉄を素材とする機械産業に生かされました。機械の技術は、その後、木や糸や土の産業と相乗効果を発揮するような形で発展し、名古屋地域はそれらの素材を加工し、部品を生産し、組み立てる機械工業・産業用ロボットのメッカとなりました。

（「産業のなごや2010」より）

本文中に掲載している図面等については、できるだけ分かりやすい表現となるようイメージ図として作成しております。

「歴史的資源の豆知識」の記載については、引用元の記述を活かしているため、文体の統一等は図られておりません。

